科目名	観光学概論（観光学Ⅰ）			科目コード	SI101		
英文名	Outline of Tourism Tourism Studies I			科目区分	【専門科目】 導入科目（選択）		
担当教員	吉元 菜々子		教員コード	165		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	☒	1.大学生としての幅広い教養を身につける		☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する		☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	観光は19世紀前半の西欧における交通技術の刷新とともに発展してきた。そしていまや観光は世界中の多くの国にとって欠かすことのできない産業になっているとともに、私たちの生活とも深く結びついた文化となっている。本授業では観光をめぐる現状と、観光学における基礎的な知識を習得することを通じて、私たちの社会と複雑に絡み合う観光現象を読み解いていく。						
授業の狙い・到達目標	観光学における基礎的な知識と、観光を分析するための視角を学ぶことを通じて、観光をめぐる現代的な諸問題について主体的に考えることができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	観光学の入門レベルの講義である。						
授業外学習（予習・復習）	事前に授業計画を確認し、各回のトピックについて自分なりに調べるなどの予習をすること。また復習として、授業後は配布資料や自分で作成したノートをもとに授業内容を振り返ること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教科書は使用しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。						
参考書・その他教材	安村克己ほか編(2011)『よくわかる観光社会学』ミネルヴァ書房 岡本伸之編(2001)『観光学入門——ポスト・マス・ツーリズムの観光学』有斐閣 そのほかの参考書については、授業にて紹介する						
課題に対するフィードバック	授業内で前回の授業のリアクションペーパーを適宜紹介し、質問への回答やフィードバックを行う。						
成績評価方法	平常点(40%)、レポート(60%)により評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	日ごろから観光に関連するニュースを意識し、調べる習慣をつけること。 授業計画は、受講生の理解度や要望に応じて若干の変更を加える場合がある。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	質問等はメール(yoshimoto@aikoku-u.org)にて受け付ける。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——観光の定義と観光学 シラバスを読み、授業の概要と目的について理解をしておくこと。 授業の目的を理解し、今後の授業計画について確認すること。
2 回	学習内容 予習 復習	観光の誕生とその歴史 観光という言葉の意味について調べておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	観光市場とその成長 観光の経済効果に関連するニュースを調べ、読んでおくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	観光の行政と施策 日本の観光に関連する法や制度にはどのようなものがあるかについて調べておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	観光産業——宿泊、旅行、運輸 観光に行き、帰ってくるまでのプロセスについてまとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	観光情報とメディア 自分が旅行に行く場合にどのような情報源から情報を得るかについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	観光の計画と振興 観光客を誘致する取り組みにはどのようなものがあるかについて調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	ホストとゲスト これまで旅行先でどのような「おもてなし」を受けたことがあるかについて、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	観光のまなざしとメディアの力 行ってみたい観光地に対してどのようなイメージを持っているかについて考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	観光経験と真正性 これまで観光の経験の中で感じた気持ちについてまとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	観光文化——文化の客体化、商品化 海外からの観光客が求めている日本文化とはどのようなものであるかについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	観光資源——交通からみやげものまで 旅に出たくなる理由について考え、どうすればそれを促すことができるか考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	アウトバウンドとインバウンド 国内旅行と国外旅行の違いについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	観光と社会問題 観光がもたらす影響にはどのようなものがあるかについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——日本における観光の現状 これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 これまでの授業を振り返り、受講内容について理解を深めること。

科目名	国際協力学		科目コード	SI102	
英文名	International Cooperation Studies		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	梶原 健嗣	教員コード	145	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日/2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☒	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	戦後の国際関係、国連を中心に学ぶことで、国際社会の相互依存・関係を学習する。本講義の学習を通じて、今日の国際社会の様々な問題点を体系的に理解して欲しい。				
授業の狙い・到達目標	講義では、まず国際連合の成り立ち、組織を総論として講義する。その後、安全保障理事会をはじめ、国連の主要機関について解説していく。本講義を通じて、今日の国際社会のありよう、また問題点を歴史的に理解できるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	2年次以降を対象とする専門科目であり、若干、発展的内容を含む。最も関連性が高い科目は、国際関係論である。日本と国際社会も、関連性がある。				
授業外学習(予習・復習)	新聞の国際面を読むことが一番効果的な発展学習である。本講義の予習にも、復習にもなる部分があるはずである。講義レジュメの引用資料も、発展的復習として効果的である。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。				
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。				
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。				
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)				
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ？」という問いを大事にしながら学習すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション, 講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに, 左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	総論①, 第2次世界大戦の原因・経緯から始め, 国際連合の誕生までを概説する。 第2次世界大戦の展開について, 自分なりに調べてくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	総論②, 国連を構成する主要な組織について, 体系的に概説する。 国際連盟と国際連合の違いについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	各論①, 安全保障理事会の役割と特徴を概説し, 戦後の集団安全保障体制を理解する。 戦後の国際紛争(武力紛争)について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	各論②, NPTとIAEAの役割と特徴を概説し, 戦後の核管理体制について, 理解する。 核兵器禁止条約について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	各論③, ブレトンウッズ体制の役割と特徴を概説し, 戦後の国際経済の基礎を理解する。 世界銀行やIMFの意義について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	各論④, GATTとWTOの役割と特徴を概説し, 戦後の国際貿易体制を理解する。 関税と自由貿易(FTAを含む)について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	各論⑤, UNCTADの役割と特徴を概説し, 戦後の南北問題について, 的確に理解する。 南北問題について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	各論⑥, UNHCRの役割と特徴を概説し, 戦後の難民問題について, 的確に理解する。 現在の難民問題について, 日本の実情も含め, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	各論⑦, IPCCの役割と特徴を概説し, 地球温暖化問題の現状と課題について, 理解する。 地球温暖化対策の進展と問題点について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	各論⑧, 世界遺産の意義とそれを通じた国際交流について, 概説する。 自分の出身地・出身国に世界遺産として, どのようなものがあるか, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	その他①, EU設立の経緯と意義について概説し, 戦後ヨーロッパについて理解する。 イギリスのEU離脱について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	その他②, ODAの役割と特徴を概説し, 戦後の開発援助について, 理解する。 日本のODAについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。

科目名	世界の諸地域(西洋文化論)		科目コード	SI103	
英文名	World Regions (Western Culture)		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	栗林 慶	教員コード	158	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・4時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☒	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	この授業では世界の諸地域、とくに南北アメリカとヨーロッパを中心とした地域の地誌を学ぶ。地域の特徴を探り、把握する方法を理解することで、現代世界の地理的認識を養う。				
授業の狙い・到達目標	①南北アメリカやヨーロッパの地域について、自然環境や社会、経済などの概要を説明することができる。 ②地域の自然・人文的特徴の要素の関連から、各地域の生活様式や文化を統合的に説明することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	高等学校の社会科の知識が前提となる。				
授業外学習(予習・復習)	予習は授業計画や教員からの指示をよく確認して行うこと。また、復習として、毎回授業内容について振り返り、返却された提出課題についてはよく確認してから次回の授業に臨むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし				
参考書・その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。				
課題に対するフィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。				
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、グループワークにおける周囲との共同・協調を評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	予習・復習時には外務省HPの「国・地域」のページが参考になる。 (https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html)				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。				

授業スケジュール

世界の諸地域（西洋文化論）

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 地域の特徴をとらえる シラバスを読み、授業内容について確認しておくこと。 授業内容と進め方について、確認しておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	アンглоアメリカ① アンглоアメリカに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
3 回	学習内容 予習 復習	アンглоアメリカ② アンглоアメリカに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
4 回	学習内容 予習 復習	ラテンアメリカ① ラテンアメリカに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
5 回	学習内容 予習 復習	ラテンアメリカ② ラテンアメリカに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	オセアニア オセアニアに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	中間課題① 第2回から第6回の学習内容を重点的に振り返っておくこと。 課題の返却後に、理解していなかった内容や未習得の内容についてよく復習しておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパ概論 ヨーロッパに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパ各国① イギリス、フランス、ドイツ イギリス、フランス、ドイツの各国について、基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
10 回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパ各国② 東ヨーロッパ、南ヨーロッパ諸国 東ヨーロッパ、南ヨーロッパ諸国の基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	関連地域 ～ロシア～ ロシアに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
12 回	学習内容 予習 復習	中間課題② 第8回から第11回の学習内容を重点的に振り返っておくこと。 課題の返却後に、理解していなかった内容や未習得の内容についてよく復習しておくこと。
13 回	学習内容 予習 復習	日本① これまでの学習で得た地域を把握する方法を意識しつつ、日本の地誌について調べておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
14 回	学習内容 予習 復習	日本② これまでの学習で得た地域を把握する方法を意識しつつ、日本の地誌について調べておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
15 回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 各回の資料を読み返し、授業内容を振り返っておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。

科目名	地理学概論(日本と西洋文化)			科目コード	SI104	
英文名	Outline of Geography (Japan and Western Culture)			科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	☒	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	言語、宗教、政治経済といった様々な事象をキーワードとして、地理学的な考え方について学ぶ。とくに文化に関する多様な側面に焦点を当て、それらがどのように形成・変容してきたかを考える。					
授業の狙い・到達目標	①地理学の考え方をを用いて、言語、宗教、政治経済などの諸相を空間的に説明できる。 ②日本や世界の自然環境、社会、経済などを手がかりとして、各地域の文化現象を分析し、説明することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	高等学校の社会科の知識が前提となる。					
授業外学習(予習・復習)	予習は授業計画や教員からの指示をよく確認して行うこと。また、復習として、毎回授業内容について振り返り、返却された提出課題についてはよく確認してから次回の授業に臨むこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	森 正人・中川 正(2022)『文化地理学ガイダンス(改訂版)』ナカニシヤ出版 その他、講義で使用したものについては、適宜紹介する。					
課題に対するフィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。					
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、グループワークにおける周囲との共同・協調を評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。					
科目に関連した教員の實務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。					

授業スケジュール

地理学概論(日本と西洋文化)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ～地理学を学ぶ～ シラバスを読み、授業内容について確認しておくこと。 授業内容と進め方について、確認しておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	空間と文化 空間と文化の関わり合いについて、どのような接点があるのか考えておくこと。 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること。
3 回	学習内容 予習 復習	地理学の方法① 地図について 地図による表現がどのように文化と関連するのか、考えておくこと。 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること。
4 回	学習内容 予習 復習	地理学の方法② 環境について 環境という用語の使用法について調べておくこと。 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること。
5 回	学習内容 予習 復習	地理学の方法③ 景観について 景観という用語の使用法について調べておくこと。 第2回から第5回の内容をまとめておき、不明点を残さないようにすること。
6 回	学習内容 予習 復習	中間課題 地理学の方法論について復習し、研究手法の具体的内容をイメージしておくこと。 第2回から第5回の内容をまとめておき、不明点を残さないようにすること。
7 回	学習内容 予習 復習	トピック① ことば 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、政治と地理の関係を考えておくこと。 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること。
8 回	学習内容 予習 復習	トピック② 政治 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、政治と地理の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、地理を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	トピック③ 都市 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、都市と地理の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、地理を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
10 回	学習内容 予習 復習	トピック④ 宗教 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、宗教と地理の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、地理を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	トピック⑤ 民族 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、民族と地理の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、地理を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
12 回	学習内容 予習 復習	トピック⑥ 生業 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、生業と地理の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、地理を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
13 回	学習内容 予習 復習	応用編① 観光 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、観光と地理の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、地理を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
14 回	学習内容 予習 復習	応用編② ジェンダー 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、ジェンダーと地理の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、地理を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
15 回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 各回の資料を読み返し、授業内容を振り返っておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。

科目名	日本文化入門		科目コード	SI105	
英文名	Introduction to Japanese Culture		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	梶原 健嗣	教員コード	145	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日/1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☒	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	現在の日本文化は、各時代に花開いた様々な文化的が重層的に折り重なったものである。そうした観点に立ち、歴史的に日本文化の発展・変容を理解することを目指す。				
授業の狙い・到達目標	歴史学習で重要なのは、政治・社会の流れのなかで各時代の文化的特徴を理解することである。その点を心掛けて講義を行い、学生は知識の断片にならない多面的な日本文化の理解に到達することができるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	内容は、講義名のとおり、入門レベル。日本史学概論や日本社会史が幕末から始まる近現代史であるのに対し、本講義は先史時代からの通史である。歴史と現代(歴史と現代Ⅱ)が地域史として、また日本とアジアが、外交史として、古代・中世なども扱っている。				
授業外学習(予習・復習)	本講義では、世界遺産に登録されている文化遺産や寺社を多く扱う。「百聞は一見に如かず」であり、これらを実際に訪れてみることも、またそれらの紹介資料(ホームページ、紹介映像)を閲覧することが、予習・復習として効果的である。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジユメを用意し、教科書は使用しない。				
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジユメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。				
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。				
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)				
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ？」という問いを大事にしながら学習すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション, 講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返しすとともに, 左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	石器時代から縄文時代まで。加曾利貝塚, 三内丸山遺跡などを取り上げる。 加曾利貝塚や三内丸山遺跡の解説動画を見てみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	弥生時代から古墳時代まで。登呂遺跡, 吉野ケ里遺跡などを取り上げる。 登呂遺跡や吉野ケ里遺跡の解説動画を見てみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	飛鳥時代から奈良時代まで。世界遺産の法隆寺, 古都・奈良の文化財を取り上げる。 世界遺産「古都・奈良」を構成する社寺につき, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	平安時代。世界遺産として登録されている, 古都・京都の文化財を取り上げる。 世界遺産「古都・京都」を構成する社寺につき, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	平安後期から鎌倉時代。浄土信仰ほか, 宗教の民衆社会の広まりについて概説する。 浄土信仰について, 自分なりに調べてみること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	室町時代。金閣寺・銀閣寺や伝統芸能(能)を中心に, その文化を概説する。 北山, 東山文化について, 自分なりに調べてみること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	江戸時代初期。城郭建築と世界遺産・日光を中心に, 17世紀の文化を概説する。 世界遺産・日光の社寺について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で, 第2回～第8回までの講義をおさらいする。 第2回～第8回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	近代的発展の基礎がつくられた時代として江戸時代を捉え, その歴史・文化を概説する。 江戸時代の今日的意義について, 自分なりに調べてみること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	明治維新の「国際化・近代化」を概説し, 同時代の歴史と文化を学ぶ。 明治維新の意義について, 自分なりに調べてみること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	大正デモクラシーと当時の「モダンライフ」を総合的に捉え, その歴史的意義を理解する。 大正デモクラシーの現代的意義について, 自分なりに調べてみること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	戦後復興と高度成長の意義を, 「大衆消費社会」という文化的側面から捉え直す。 昭和の時代(とりわけ戦後)の文化的特徴について, 自分なりに調べてみること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	平成以降の現代を, IT社会とグローバル化をキーワードに捉え直す。 平成の文化的特徴について, 自分なりに調べてみること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で, 第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。

科目名	日本史学概論		科目コード	SI106	
英文名	Outline of Japanese History		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	梶原 健嗣	教員コード	145	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日/1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☒	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	本講義は、日本の近現代史である。幕末の開国の時期から現代まで日本の歴史を、政治及び外交分野を中心に概説する。「概論」講義であり、教養レベルとして必須の事項を概説する。				
授業の狙い・到達目標	講義は前半が戦前、後半が戦後である。前半では、明治憲法体制と5度の対外戦争を中心に学習していく。後半の戦後でも、対外関係を中心に学習し、前半の学習と対応させる。その結果、日本と国際社会の位置づけを歴史的に理解できるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	概論講義であり、それほど専門的なものは求めない。関連科目としては、同じ近現代史である日本社会史(歴史と現代Ⅰ)が最も関連が深い。ついで、歴史と現代(歴史と現代Ⅱ)が関連が深い。併せて履修することで、理解が深まるものと考ええる。				
授業外学習(予習・復習)	高校までの教科書でいうと、「日本史A」と同じ範囲である。その復習が講義をスムーズに理解するうえで有用である。また、講義レジュメの参照資料URLをたどってみると、発展的な復習になる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。				
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。				
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。				
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)				
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション, 講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに, 左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	江戸時代について概説し, 幕末に至る歴史を理解する。 戦国時代から江戸時代に至る流れについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	開国から明治維新に至るまでの政治過程を概説する。 明治維新と幕末の騒乱について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	明治国家の形成と発展を, 「明治憲法体制」として概説する。 自由民権運動や大日本帝国憲法について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	近代日本最初の対外戦争である日清戦争, またその後の日露戦争の意義を概説する。 日清, 日露戦争や19世紀末の日本につき, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	第1次世界大戦の経緯・意義を, 日本及びアジアを中心に概説する。 第1次世界大戦の展開につき, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	大正期の日本社会を, シベリア出兵そして関東大震災を中心に概説する。 関東大震災の政治・社会・経済的な意義(影響)について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	第2次世界大戦の経緯・意義を, 日本及びアジアを中心に概説する。 第2次世界大戦の展開につき, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で, 第2回～第8回までの講義をおさらいする。 第2回～第8回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	占領下で成立した戦後体制を概説する。概ね, 昭和20年代が講義内容となる。 占領下の日本のできごとにつき, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	高度成長と55年体制の成立を概説する。概ね, 昭和30年代が講義内容となる。 55年体制を構成した自民党, 社会党について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	ソ連, 韓国, 中国との国交回復過程をたどり, 日本の「戦後処理」について概説する。 日本の戦後外交について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	世界的には冷戦崩壊, 国内的には55年体制の崩壊だった1990年代を概説する。 1990年代の世界的な動向について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	グローバル化と日本社会の変容をテーマに, 平成以降の時代を概説する。 平成以降の日本社会の変容について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で, 第10回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。

科目名	日本事情（現代日本事情Ⅰ）			科目コード	SI107		
英文名	Issues in Japanese Society (Contemporary Japan I)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	部田 和美		教員コード	153		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日/3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	前半は「時事問題」「日本の文化」「国際社会での日本」から話毎回話題を1つ定め、関連記事や資料等を読み、内容を把握し自身の意見をまとめる。後半は、学生自らが前半で扱ったテーマから特に関心のあるものを1つ選び、より深く掘り下げ、個人発表を行う。「日本語教師養成サポートプログラム」必須科目						
授業の狙い・到達目標	時事問題や生活文化に関する知識と理解を深め、自ら問題提起をして解決策を考える力をつける。また、自身の意見を簡潔にまとめ相手に伝える能力を身につけることができる。日本語教師や国際交流分野での活躍を希望している学生は、日本の文化や現状を理解し、外国人に発信できる力を養う。						
授業内容のレベル・関連科目	関連科目：新カリキュラム)ことばと社会(未開講) 旧カリキュラム)現代日本事情Ⅱ						
授業外学習(予習・復習)	予習)次週の資料を前もって読み、理解しておく。 復習)扱ったテーマについて自身で調べまとめる。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員、担当学生が用意した資料を使用						
参考書・その他教材	都度講義内で指定する。						
課題に対するフィードバック	毎回の課題の修正点を確認し、重要な点は授業で共有する。						
成績評価方法	個人発表40%、毎週の課題40%、平常点20%						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から様々な時事ニュースや身近な出来事に関心を持ち、それらについて考える習慣をつけてほしい。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org						

授業スケジュール

日本事情（現代日本事情Ⅰ）

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 時事問題(1) 青少年に関する問題① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
2 回	学習内容 予習 復習	時事問題(2) 青少年に関する問題② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
3 回	学習内容 予習 復習	時事問題(3) 社会・生活に関する問題① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
4 回	学習内容 予習 復習	時事問題(4) 社会・生活に関する問題② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
5 回	学習内容 予習 復習	時事問題(5) 社会・生活に関する問題③ 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
6 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(1) 伝統文化の今昔① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
7 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(2) 伝統文化の今昔② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
8 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(3) 日本のサブカルチャー① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
9 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(4) 日本のサブカルチャー② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
10 回	学習内容 予習 復習	国際社会と日本(1) 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
11 回	学習内容 予習 復習	国際社会と日本(2) 授業で使用した資料を見直しておく 教員の提示した課題を行う
12 回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(1) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
13 回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(2) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(3) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	発表を終えての反省とまとめと授業全体のまとめ 授業で扱ったプリント等を再読し、自身で振り返りを行う 特になし

科目名	言語学概論		科目コード	SI108	
英文名	Introduction to Linguistics		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	部田 和美	教員コード	153	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日/4時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	言語学に関する一般知識について学ぶ。言語がどのように研究されてきたのか、各時代で主流だった複数の言語理論を概観する。また、日本語を世界の言語の中の一つとして客観的に捉え、言語学の理論に基づいた日本語文構造や意味構造を学ぶ。単に講義を聞くだけではなく、毎回ワークシートを利用し能動的に授業に取り組んでもらう。「日本語教師養成サポートプログラム」必須科目。				
授業の狙い・到達目標	言語学の基礎知識を身につける。また、その言語理論をもとに日本語の文構造や意味構造について理解し、外国人に日本語の構造について正確に伝える技術を身につける。に付ける。また、普段から見聞きする言葉に意識を向け、疑問を持ったり答えを導き出したりする思考力を養う。				
授業内容のレベル・関連科目	留学生は基礎的な日本語文法の知識が必要 関連科目：日本語の音声と語彙				
授業外学習(予習・復習)	予習)教員が指示する次回テーマに関する課題。 復習)授業内容に関する復習課題。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が準備したプリントを使用。				
参考書・その他教材	原沢伊都夫『日本語教師のための入門言語学』スリーエーネットワーク 佐久間淳一・加藤重広・町田健『言語学入門-これから始める人の入門書』研究社				
課題に対するフィードバック	宿題の復習課題を全員で確認し、簡単な復習テストを行う。				
成績評価方法	期末テスト70%、課題提出と復習テスト30%				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から身の回りで使われている日本語を観察し問題意識を持つこと。留学生は講義内容をより確実に理解するため、基本的な日本語文法はしっかり身に付けておくこと。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 言語学とは 言語学の諸分野 シラバスの内容を確認しておく 教員が提示した復習課題を行う
2 回	学習内容 予習 復習	言語学研究の歴史① ソシユールの言語理論 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
3 回	学習内容 予習 復習	言語学の歴史② 構造言語学～チョムスキーの文法理論① 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
4 回	学習内容 予習 復習	言語学の歴史③ チョムスキーの文法理論② 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
5 回	学習内容 予習 復習	言語学の歴史④ 認知言語学 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
6 回	学習内容 予習 復習	言語学の中の日本語学① 日本語学史 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
7 回	学習内容 予習 復習	言語学の中の日本語学② 日本語学と国語学 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
8 回	学習内容 予習 復習	統語論① 日本語の句構造 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
9 回	学習内容 予習 復習	統語論② 日本語の文構造 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
10 回	学習内容 予習 復習	統語論③ 日本語の文構造 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
11 回	学習内容 予習 復習	意味論① 意味論とは 形式的な意味 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
12 回	学習内容 予習 復習	意味論② 形式的な意味 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
13 回	学習内容 予習 復習	意味論③ 認知的な意味 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ① 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ② これまでの内容で不明な点があればまとめておく 教員が提示した復習課題を行う

科目名	日本語の音声と語彙（日本語学概論Ⅰ）		科目コード	SI109	
英文名	Japanese Phonetics and morphology (Outline of Japanese Linguistics Ⅰ)		科目区分	【専門科目】 導入科目（選択）	
担当教員	部田 和美	教員コード	153	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日/3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	音声学、音韻論、形態論の理論に基づき、日本語の音声や語彙の特徴について学ぶ。音声、音韻に関しては、他言語と比較し、日本語学習者が日本語の発音を学ぶ上での困難点について考える。また、語彙は主に日本語の語構成や意味について学ぶ。「日本語教師養成サポートプログラム」必須科目。				
授業の狙い・到達目標	日本語の音声や語彙の基礎知識を身に付ける。日常何気なく使用している日本語を客観的に捉え、その特徴を見出し理解することで、外国人に分かりやすく説明できる技術を身に付けることができる。また、普段から見聞きする言葉に意識を向け、疑問を持ったり答えを導き出したりする思考力を養う。				
授業内容のレベル・関連科目	留学生はJLPTN2相当以上の日本語力が必要 関連科目：新カリキュラム)言語学概論 日本語の文法(未開講)、 旧カリキュラム)言語学概論Ⅱ				
授業外学習(予習・復習)	予習)教員が指示する次回テーマに関する課題 復習)授業内容に関する復習課題			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が準備したプリントを使用				
参考書・その他教材	原沢伊都夫『日本語教師のための入門言語学』スリーエーネットワーク 松崎寛・河野俊之『日本語教育よくわかる音声』アルク 伊坂淳一『ここからはじまる日本語学』ひつじ書房				
課題に対するフィードバック	宿題の復習課題を全員で確認し、簡単な復習テストを行う。				
成績評価方法	期末テスト70%、課題提出と復習テスト30%				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から身の回りで使われている日本語を観察し問題意識を持つこと。留学生は講義内容をより確実に理解するため、基本的な日本語文法はしっかり身に付けておくこと。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org				

授業スケジュール

日本語の音声と語彙（日本語学概論Ⅰ）

1 回	学習内容 予習 復習	本講義で扱う範囲について 音声学の基礎知識① 「音声について学ぶ」とは？ シラバスの内容を確認しておく 教員が提示した復習課題を行う
2 回	学習内容 予習 復習	音声学の基礎知識② 「発音」を知る 調音点と調音法 IPAチャート 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
3 回	学習内容 予習 復習	日本語の音声的特徴① 母音、子音 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
4 回	学習内容 予習 復習	日本語の音声的特徴② 子音 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
5 回	学習内容 予習 復習	日本語の音声学的特徴③ 日本語学習者の発音における問題点 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
6 回	学習内容 予習 復習	日本語の音韻① 音韻論とは？ 音節とモーラ 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
7 回	学習内容 予習 復習	日本語の音韻② イントネーションとアクセント 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
8 回	学習内容 予習 復習	日本語の音声 まとめ これまでの内容で不明な点があればまとめておく 教員が提示した復習課題を行う
9 回	学習内容 予習 復習	形態論① 形態論とは？ 形態素と語彙素 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
10 回	学習内容 予習 復習	形態論② 形態素と異形態 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
11 回	学習内容 予習 復習	形態論③ 語彙と語構成 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
12 回	学習内容 予習 復習	日本語の表記② 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
13 回	学習内容 予習 復習	日本語の表記② 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	語彙と表記まとめ これまでの内容で不明な点があればまとめておく 教員が提示した復習課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ これまでの内容で不明な点があればまとめておく 教員が提示した復習課題を行う

科目名	異文化理解と多文化共生(異文化理解)		科目コード	SI110	
英文名	Cross-cultural understanding and multicultural coe (Cross-cultural Understanding)		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	清水 聖子	教員コード	132	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日/1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☒	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う	☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	「日本語教師養成サポートプログラム」必須科目である。異文化接触、多文化共生(地域社会における共生)、多文化・多言語主義などのキーワードを中心に、異文化理解とは何かを理解すること。				
授業の狙い・到達目標	異文化理解と多文化共生について理解し、実地体験を経て、異なる文化や人々に対する受容・理解能力を高め、異文化調整能力を身につけることができる。キーワードとして、社会・文化に関わる領域のうち、「社会・文化・地域」と「言語と社会」の②異文化接触、⑥異文化コミュニケーションと社会、⑨異文化理解と心理、⑩異文化間教育とコミュニケーション教育、⑯コミュニケーション能力の内容を講義する。				
授業内容のレベル・関連科目	留学生はJLPTN2相当以上の日本語力が必要。関連科目:「地域文化と共生」、「社会調査法」				
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進めるので、事前に読んでくること。授業後も教科書を読み直すこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	野沢伊都夫『異文化理解入門改訂版』研究社				
参考書・その他教材	授業で適宜紹介する。				
課題に対するフィードバック	教科書に付属している課題を行い、毎回授業中でフィードバックを行う。				
成績評価方法	課題10%、感想文40%、実地体験の参加と報告レポート提出50%で評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのぐらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	①課題は、教科書に直接書き込むスタイルのため、教科書購入は必須である。②授業外の実地体験の参加と報告レポートの提出が単位取得の条件である。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to : shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

授業スケジュール

異文化理解と多文化共生(異文化理解)

1 回	学習内容 予習 復習	日本の在留外国人施策 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく 授業の内容をまとめること
2 回	学習内容 予習 復習	異文化を理解する 教科書の第1章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
3 回	学習内容 予習 復習	文化とは(その1) 教科書の第2章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
4 回	学習内容 予習 復習	文化とは(その2) 教科書の第3章読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する。感想文1を書く。
5 回	学習内容 予習 復習	異文化適応 教科書第4章読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
6 回	学習内容 予習 復習	違いに気づく 教科書の第6章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する。感想文2を書く。
7 回	学習内容 予習 復習	異文化の認識 教科書の第7章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
8 回	学習内容 予習 復習	差別を考える 教科書の第8章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
9 回	学習内容 予習 復習	世界の価値観 教科書の第9章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する。感想文3を書く。
10 回	学習内容 予習 復習	異文化受容 教科書の第11章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
11 回	学習内容 予習 復習	自分を知る 教科書の第12章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する。感想文4を書く。
12 回	学習内容 予習 復習	非言語コミュニケーション 教科書の第13章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
13 回	学習内容 予習 復習	アサーティブ・コミュニケーション 教科書の第14章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
14 回	学習内容 予習 復習	多文化共生社会の実現に向けて1(実地体験) 教科書の第15章を読んでくる 第15章の内容をまとめる
15 回	学習内容 予習 復習	多文化共生社会の実現に向けて2(実地体験) 実地体験でお世話になる団体について調べる 実地体験後の報告書提出

科目名	ポップカルチャー論 I			科目コード	SI111	
英文名	Japanese Popculture I			科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	さちみ りほ		教員コード	252	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	☒	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	漫画論である。日本の漫画製作のありようを学び、その影響力等への理解を深めることを目的とする。					
授業の狙い・到達目標	今や日本を代表するポップカルチャーである漫画を学ぶことによって、「おもしろい話はなぜ面白いのか」その理由と手法を理解できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	ポップカルチャー論Ⅱと合わせて受講することを推奨するが、ポップカルチャー論Ⅰだけでも受講可。					
授業外学習(予習・復習)	自分の好きな漫画や漫画ジャンルを選び、何故それが好きか自分の言葉で語れるようしておくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	さちみりほ『ローゼリア王国物語』、さちみりほ『夢やしきへようこそ』 その他短篇集等					
参考書・その他教材	さちみりほ『銀のヴェルキュリアス』 ドラマCD等					
課題に対するフィードバック	レポートや評論等はその都度、添削する					
成績評価方法	授業への取り組み(50%)、課題・レポート(50%)					
成績評価基準	到達目標の達成度を、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	たくさんの漫画をただ読むのだけではなく、人物やセリフの重要度を探りながら読むようにする。好きな漫画を熱く語れることも、つまらない漫画を批判できる能力も大切。					
科目に関連した教員の実務経験	漫画家 平成元年 小学館新人コミック大賞受賞 小学館 秋田書店 ハーパーコリンズ等で執筆中					
担当教員への連絡方法	メールでも受け取ります。(メールアドレスは初回の講義で提示する) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	漫画とは何か（世界における日本の漫画の影響など） 授業概要を理解しておくこと 好きな漫画を一冊読んでおくこと
2 回	学習内容 予習 復習	各自に好きな漫画の面白さを語ってもらい、なぜ面白いかをディスカッションする 好きな漫画を一冊読んでおくこと 描き手の立場になって、漫画を読んでみる
3 回	学習内容 予習 復習	漫画の構成力、キャラクター表現、映画的手法について 課題の漫画を読んでおく 構成、効果の視点から読み返す
4 回	学習内容 予習 復習	背景の効果的な入れ方、演出について 背景に注意して読んでみる。背景の上手い漫画を探す 作者の狙いを考えながら読む
5 回	学習内容 予習 復習	効果、ライティング、逆光、カゲ、ベタ等の説明 上記に注意して読んでみる ライティングを変えた場合の効果等を考える
6 回	学習内容 予習 復習	アップ→ロング→人物のない、コマ等の動き、演出 上記に注意して読んでみる 他の漫画の構成に注目する
7 回	学習内容 予習 復習	これまでの講義で説明してきたことを振り返る マンガの効果を説明できるようにする 楽しみながら作り手の工夫を理解しつつ読む
8 回	学習内容 予習 復習	マンガの面白さについて、編集になったつもりで解説する。 何が面白いか説明できるようにする 面白い意味と理由を理解しながら読む
9 回	学習内容 予習 復習	キャラクター作り（キャラクターとは何か、主役と脇役のバランスなど） 主役の動きに注目して読む 主役の魅力の理由を理解する
10 回	学習内容 予習 復習	脇役の必要性、役割とバランスなど 魅力的な脇役の登場する漫画読む 脇役の魅力の理由を理解する
11 回	学習内容 予習 復習	ストーリーのバランス、起承転結のページ配分について 起承転結の意味を理解しておく 読切マンガの何が起でどこが転に当たるか理解する
12 回	学習内容 予習 復習	ストーリーの成り立ち、セリフとモノローグの意味 小説、映画とマンガの違い、共通点を考えておく マンガ独特の効果を知る
13 回	学習内容 予習 復習	イントロ、見開き、ヤマ場、ラストなどの役割について それぞれ、どこに当たるか考えておく 各場面の役割を念頭に置いて読み返す
14 回	学習内容 予習 復習	これまでの総括、各自の漫画論を語る、レポート提出 好きな一冊を選び、その理由を語れるように読んでおく 他の人が勧めた本も読んでみる
15 回	学習内容 予習 復習	講義への各自の感想、レポートを発表し合い、感想を伝えあう 各自のレポートや講義について、感想を述べられるようにしておく 様々な視点から漫画を理解し、実生活に活かしてゆく

科目名	ポップカルチャー論Ⅱ		科目コード	SI112	
英文名	Japanese Popculture Ⅱ		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	さちみ りほ	教員コード	252	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・4時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う	☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	☒	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	マンガの表現方法の理解を深め、批評・分析力・実技力も高める				
授業の狙い・到達目標	原稿を実際に描く(漫画家体験)、評価する(編集体験)他、詩や脚本、小説などにも挑戦することで、理解を深め、実社会に活かせる表現力を身につけることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	ポップカルチャー論Ⅰと合わせて受講することを推奨するが、ポップカルチャー論Ⅱだけでも受講可。				
授業外学習(予習・復習)	自分で考えたストーリーや漫画評論の作成・創作が苦手であれば、童話の漫画化なども許容とする。	授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	著作権の関係上、拙著短篇集や「夢やしきへようこそ」「ローゼリア王国物語」等を用いる。できるだけ貸し出して購入負担を減らす。				
参考書・その他教材	作家の許可を得られた場合、他の作家の作品等も使用する場合もある。				
課題に対するフィードバック	授業で読んだ漫画の続き、セリフのネーム入れ等、その都度提出してもらう。授業中に間に合わなかった場合、翌週提出も可。				
成績評価方法	授業への取り組み(30%)、出席率(40%)、課題・レポート(30%)				
成績評価基準	到達目標の達成度を、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	漫画も小説も上手下手ではなく、読み手にわかりやすく、でも面白く伝えることが大切。その基本を教えます。一緒に頑張りましょう。どれほど熱心に参加し、授業に取り組んでいるか、丁寧さやセンス。初めは人真似でもよいので果敢に挑戦すること。				
科目に関連した教員の実務経験	漫画家 平成元年 小学館新人コミック大賞受賞 小学館 秋田書店 ハーパーコリンズ等で執筆中				
担当教員への連絡方法	メール・LINE・SIGNAL等で受け取ります。 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

1 回	学習内容 予習 復習	漫画論 現代社会における漫画の貢献度とその実践について 好きな漫画を語れるようになっておく 授業内容を反芻し、次回話せるようになっておく
2 回	学習内容 予習 復習	キャラクターの見せ方・作り方① 色んなジャンルでの効果的演出法 ノート、鉛筆、絵を描きやすい道具も用意 自分の好きな漫画のイントロ(出だし)なぜ魅力あるのか考えておく
3 回	学習内容 予習 復習	実践して1ページ漫画に挑戦 4コマギャグも絵が苦手な人は小説も可 ストーリーを考えてくる(イントロだけで可) 授業中に完成しなかった場合は自宅で完成させる
4 回	学習内容 予習 復習	1ページ目の苦労点 その先の話もふくらませ方 課題に渡したマンガを読んでおく(貸し出し予定) どこで効果を狙っているかわかるように
5 回	学習内容 予習 復習	キャラクターの見せ方・作り方② 脇役、ライバルなど登場のさせ方 好きな漫画を読んでおく(事前に課題の貸し出しも可) 魅力的なキャラが何故魅力あるのか理解して次授業で言えるように
6 回	学習内容 予習 復習	起承転結の起の部分 1ページマンガから先に進める 他のに変更も可 途中までで良いので考えておく うまく話がまとまるかも考えて 反省点があれば直す
7 回	学習内容 予習 復習	絵の効果、背景、ポップカルチャー論Ⅰと被るがこちらでは実践 簡単な絵(背景入りを描いてみる) 反省点があれば直す
8 回	学習内容 予習 復習	ストーリーの骨子 起承転結の一番地味な承の部分を解説 16～30P程度の漫画を想定し、承まで考える(ネーム)、文章(プロット)も可 授業内容を理解し、ページ配分を考える
9 回	学習内容 予習 復習	転・結のページ配分 短篇を読みながら実際例を理解する 自分の考えたストーリーの先を考えておく 他の話に移っても可 キャラクターによる話の読み方を理解する
10 回	学習内容 予習 復習	各ジャンルでの違いを理解① ファンタジー、時代物、学園者、少年・少女漫画 いろんな漫画を読んでおく 好きなジャンルの漫画を描き始めて見る(下描き)
11 回	学習内容 予習 復習	各ジャンルでの違いを理解② 4コマ、ギャグ、シリアス、ホラー等 引き続きどんなジャンルが好きか 好きなジャンルの漫画を描き始めて見る(下描き)
12 回	学習内容 予習 復習	これまでのことを踏まえ漫画作品を最後まで制作① 漫画原作、小説、脚本も可 まずジャンルを決め、ぶれないこと 少年向け、子供向け等 自分が伝えたいこと対象は誰かを確認
13 回	学習内容 予習 復習	漫画制作② 原作、脚本 短篇なら何本でも可 自宅でも制作を進めておく 直したい点が出てきたら直しておく
14 回	学習内容 予習 復習	最終作品提出 何作でも可 ギャグ作品とシリアス作品も可 最後まで丁寧に仕上げしておく 反省点があれば振り返る
15 回	学習内容 予習 復習	完成作品を返却 自分の作品や授業の感想 実践してみてわかったことなど 半年間の授業の感想を考えておく 今後、自分が読むなら、また描くなら、どこに注目するかを考える

科目名	心理学基礎		科目コード	SI213	
英文名	Introduction to Psychology		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	原島 雅之	教員コード	142	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日/2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☒	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	「心」は自分にとっても身近で明らかなものであるように思える一方で、考えれば考えるほど複雑で難しいもののようにも思える。心理学という学問において、そのような「心」に対してどのようにアプローチを行ってきたのか、様々な分野の代表的な知見を紹介していく。				
授業の狙い・到達目標	この講義を通して、どのようにして心を科学的に扱うことができるのかについて学ぶとともに、自分自身や身の回りの他者、日常における様々な問題について心理学的視点から捉えることができるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	心理学関連科目において入門的な位置づけの授業となる。この授業を「入口」として、その後のより専門的な学習につなげてほしい。				
授業外学習(予習・復習)	予習として毎回の授業の前に教科書の該当する章に目を通しておくこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	山田一成・谷口明子(編)『心理学の基礎』八千代出版				
参考書・その他教材	授業の際に適宜紹介あるいは配布を行う。				
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。				
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org				

授業スケジュール

心理学基礎

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー心理学とは何か シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	感覚の特徴、知覚の成り立ち、様々な錯視 テキストの1章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	注意のはたらき、注意と情報処理段階 事前に配布する資料を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	記憶のしくみ、記憶の再構成的性質 テキストの2章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	感情のはたらき、感情の生得性 テキストの3章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	思考ー推論と意思決定、知能とは何か テキストの4章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	条件づけと様々な学習 テキストの5章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	動機づけ(モチベーション)、目標の達成 テキストの6章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	発達のとらえ方、発達支援 テキストの7章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	パーソナリティ(性格)の諸理論と測定 テキストの8章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	社会的認知ー自分や他者の捉え方 テキストの9章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	社会的影響ー社会的動物としてのヒト、社会的促進や同調 テキストの10章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	心のケアーカウンセリング、認知行動療法 テキストの11章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	心の健康とストレス テキストの12章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー「心のはたらき」とは何か ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 人間の「心のはたらき」とはどのようなものかについて考えること

科目名	心理学概論		科目コード	SI214	
英文名	Outline of Psychology		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	中村 博子	教員コード	162	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☒	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	心理学の基礎的分野を幅広く講義・演習を通じて学び、様々な角度から心のはたらきについて議論する。心理学がどのような方法で人間の「心」に迫ろうと試みてきたか、そしてその試みを通じて何が明らかになってきたかについて学ぶ。				
授業の狙い・到達目標	心理学の様々な研究を通じて、「心理学とは何か」、「心理学が“こころ”と呼んでいるものは何か」を理解することができる。また、心理学という学問が、心というやや曖昧な概念を科学的に研究してきた歴史を学び、「科学的に思考する」姿勢を獲得することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士(日本心理学会)の取得資格を得ることができる。				
授業外学習(予習・復習)	テーマごとにまとめたノート等を作成することを推奨する。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。毎回資料を配布する。				
参考書・その他教材	サトウタツヤ・渡邊芳之(著)「心理学・入門 心理学はこんなに面白い」有斐閣アルマ 上村保子・須藤昇(編著)「心理学ガイド」相川書房				
課題に対するフィードバック	レポートや授業での演習・ディカッションについてフィードバックを行う				
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業参加態度(10%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に授業に取り組むこと。日々、人はなぜそのような行動をとるのか、疑問や意識をもって日常生活を送ることが求められる。				
科目に関連した教員の実務経験	地方公務員として児童相談所に勤務(経験)。カウンセラーとして臨床勤務(経験)。				
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、メールでの質問(hnakamura@aikoku-u.org)を受け付ける。 メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション。心理学という学問の意味について考える シラバスを読む。心理学で何を学びたいかについて考えておく。 受講時点での心理学のイメージ、関心のあるテーマについてまとめる
2 回	学習内容 予習 復習	心理学とは何か 職業や歴史について 心理学の歴史について調べ疑問点を整理しておく。また、占いと心理学の違いについて考えておく。 ポイントをノートにまとめ直す
3 回	学習内容 予習 復習	パーソナリティについて学ぶ～性格検査の体験(担当教員のカウンセラーの実務経験に基づく授業) 前回のノートをよく見直しておく。 性格がどうつくられるかのポイントをまとめる
4 回	学習内容 予習 復習	知覚と認知について学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
5 回	学習内容 予習 復習	記憶の仕組みについて学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 長期記憶と短期記憶の違い、ポイントをノートにまとめ直す。
6 回	学習内容 予習 復習	やる気について学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。やる気ができること、できないことの違いを考えておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
7 回	学習内容 予習 復習	これまでの学習のまとめ これまでの学習の疑問点を整理しておく これまでの学習を生活にどのように生かすかについてまとめる
8 回	学習内容 予習 復習	学習理論について学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 条件付けの理論について、自分の経験を振り返って関連付けてまとめる
9 回	学習内容 予習 復習	学習と行動について学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 学習理論と自身の行動に関連のある事項を分析してまとめる
10 回	学習内容 予習 復習	発達について学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 自身の発達課題についてまとめる
11 回	学習内容 予習 復習	社会的行動について学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
12 回	学習内容 予習 復習	知能について学ぶ～知能検査の実習(担当教員のカウンセラーの実務経験に基づく授業) 知能検査の種類と目的を調べておく 知能と「かしこさ」について考え、まとめる
13 回	学習内容 予習 復習	こころの病について学ぶ① 性差による精神疾患の違い 精神疾患について調べておく ポイントをノートにまとめ直す。
14 回	学習内容 予習 復習	こころの病について学ぶ②パーソナリティ障害について学ぶ パーソナリティ障害について調べておく ポイントをノートにまとめ直す。
15 回	学習内容 予習 復習	心理学の抱える問題と今後、まとめと復習 これまでまとめたノートをよく見直しておく。 試験の準備をする。

科目名	学習心理学		科目コード	SI215	
英文名	Psychology of Learning		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	佐久間 直人	教員コード	148	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☒	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	われわれは経験によって、行動の傾向や好みが変化し、得意なこと・苦手なことや、癖などを身につけている。これらの基礎となるメカニズムについて、条件づけの理論を中心に学ぶ。また、学習心理学の後から登場した認知心理学やPDPモデル、行動療法やSSTなどの応用的展開との関係を議論する。				
授業の狙い・到達目標	われわれ人間も含む生物が、行動・能力や得手不得手、好き嫌いなどを獲得していく仕組みを理解する。学習や教育をするためのヒントや、自らの行動をコントロールするためのヒントも得ることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士(日本心理学会)の取得資格を得ることができる。従って、資格に相応しいレベルは保つつもりである。関連科目は心理学概論Ⅱ、認知心理学、教育心理学(本科目と隔年開講)など。				
授業外学習(予習・復習)	配布資料と授業中にとったメモを、改めてノートにまとめることを推奨する。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。毎回資料を配布する。				
参考書・その他教材	実森正子・中島定彦(2000)「学習の心理—行動のメカニズムを探る」サイエンス社				
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。				
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし。				
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:授業のガイダンス、学習心理学の紹介 シラバスを読んでおく。 シラバスをしっかりと読み直しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	学習心理学とは何か:学習の定義、心理学的なアプローチについて 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
3 回	学習内容 予習 復習	学習の基礎:神経活動の馴化と鋭敏化 前回の授業で説明された「学習心理学とは何か」を説明できるようにしておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
4 回	学習内容 予習 復習	レスポデント条件づけ① 古典的条件づけの基礎(パブロフの犬) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
5 回	学習内容 予習 復習	レスポデント条件づけ② 複雑な古典的条件づけと信号機能 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。パブロフの犬について正確に説明できるようにする。
6 回	学習内容 予習 復習	レスポデント条件づけ③ 古典的条件づけの応用と適応的意義 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で紹介された「心の仕組み」の日常的な例を探しておく。
7 回	学習内容 予習 復習	オペラント条件づけ① 道具的条件づけの基礎(スキナー箱) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
8 回	学習内容 予習 復習	オペラント条件づけ② 強化・消去と強化スケジュール 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。スキナー箱について正確に説明できるようにする。
9 回	学習内容 予習 復習	オペラント条件づけ③ 道具的条件づけの応用 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で紹介された「心の仕組み」の日常的な例を探しておく。
10 回	学習内容 予習 復習	潜在学習・知覚学習:自覚のない学習によって実現する特殊な能力 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。自分がしていると思われる潜在学習の例を探しておく。
11 回	学習内容 予習 復習	学習心理学と認知心理学① 特定の刺激に対する直接経験に依存しない学習 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
12 回	学習内容 予習 復習	学習心理学と認知心理学② 学習と記憶 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
13 回	学習内容 予習 復習	学習心理学と応用領域① 学習心理学とニューラルネットワーク・モデル 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
14 回	学習内容 予習 復習	学習心理学と応用領域② 認知行動療法とSST 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
15 回	学習内容 予習 復習	学習心理学とは何か:まとめと復習 これまでまとめたノートをよく見直しておく。 試験の準備をする。

科目名	認知心理学		科目コード	SI216	
英文名	Cognitive Psychology		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148	単位数 2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☒	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	認知心理学とは、心の仕組み・機構を論理的に解明する学問であり、比較的新しい領域でありながら、今やほとんど全ての心理学に影響を与えている。本講義では、認知心理学の代表的なトピックとされるいくつかの題材を学ぶとともに、それらを通して、手法としての認知心理学を学ぶ。				
授業の狙い・到達目標	本講義で紹介する様々な研究を通して、「情報処理機構としての人の心」を理解する。また、実験データから行動の心的過程を推測しモデル化する手法と、その意義を習得することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士(日本心理学会)の取得資格を得ることができる。従って、資格に相応しいレベルは保つつもりである。関連科目は心理学概論Ⅱ、色彩心理学、学習心理学など。				
授業外学習(予習・復習)	配布資料と授業中にとったメモを、改めてノートにまとめることを推奨する。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。毎回資料を配布する。				
参考書・その他教材	御領謙・菊地正、他『最新 認知心理学への招待—心の働きとしくみを探る』サイエンス社 日本認知心理学会(編)『認知心理学ハンドブック』有斐閣				
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。				
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)				

授業スケジュール

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション: 認知心理学の紹介 シラバスを読んでおく。 シラバスをしっかりと読み直しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	認知心理学とは何か: 認知心理学の研究法と理論 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
3 回	学習内容 予習 復習	知覚認知: 感覚・知覚と認知 前回の授業で説明された「認知心理学とは何か」を説明できるようにしておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
4 回	学習内容 予習 復習	知覚認知: 特徴統合、複雑な構造を持つ刺激の知覚 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
5 回	学習内容 予習 復習	注意: 注意の概念、種類とモデル 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
6 回	学習内容 予習 復習	注意: 注意の効果と諸現象 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で紹介された現象の日常的な例を探しておく。
7 回	学習内容 予習 復習	記憶: 記憶の定義と分類 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
8 回	学習内容 予習 復習	記憶: 記憶に関する心理学的諸現象 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で紹介された現象の日常的な例を探しておく。
9 回	学習内容 予習 復習	記憶: 日常場面での記憶・知識と記憶法略 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
10 回	学習内容 予習 復習	思考: 問題解決と推論 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
11 回	学習内容 予習 復習	思考: 効用理論と意思決定論 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で紹介された現象の日常的な例を探しておく。
12 回	学習内容 予習 復習	言語: 単語の認知に関する心理学的諸現象 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
13 回	学習内容 予習 復習	言語: 文章理解、心理学と言語学 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
14 回	学習内容 予習 復習	認知心理学的モデル: 認知心理学が明らかにする心の機能 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
15 回	学習内容 予習 復習	認知心理学とは何か: まとめと復習 これまでまとめたノートをよく見直しておく。 試験の準備をする。

科目名	生活科学概論 I		科目コード	SI217	
英文名	Outline of Life Science I		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	市川 遥夏	教員コード	134	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日/4時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☒	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う	☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	食・香料と生活を中心とする生活科学入門で、内容は栄養素とそれらの機能、機能性食品、特定保健用食品、食中毒、食品添加物、遺伝子組み換え食品と安全性、残留農薬、環境ホルモン、香料について全般的に解説する。				
授業の狙い・到達目標	現代の日常生活のなかに食と生活の重要性に鑑み、健康の保持・増進をはかり、さらに疾病予防等を目標とする。食生活や香料に興味を持ち、食や香料のもたらす健康への影響を理解することができる。自分の生活を見直し、より健康な生活を営む力を身につけることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	日常の生活を通じて、食・香料と生活について関心を持ち、科学的な面からの理解すること。生活科学概論Ⅱ、食品機能学、食文化論を併せて学習することが望ましい。				
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深める。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。				
参考書・その他教材	池田彩子ら編『基礎栄養学』東京化学同人；上野川修一ら編『食品の科学』東京化学同人				
課題に対するフィードバック	講義中の小テストは、その場で解説する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。				
成績評価方法	期末課題発表(50%)、毎回の授業への取り組みと小テスト(50%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に教員に質問する。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)				

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、進め方などについて学ぶ。食と生活、栄養概論について学ぶ。 シラバスを熟読し、理解しておくこと。必須微量元素の種類について調べること。 授業内容について振り返り、必須微量元素について理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	食と生活、ビタミンの吸収・代謝・過不足症について学ぶ。 ビタミンについて調べること。 授業内容について振り返り、ビタミンなどについて理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	機能性食品、特定保健用食品について学ぶ。 機能性食品、特定保健用食品の分類について調べること。 授業内容について振り返り、栄養機能食品について理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	食と生活、バランスのとれた食生活について学ぶ。 五大栄養素について調べること。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	健康食品、ダイエット食品について学ぶ。 サプリメントについて調べること。 授業内容について振り返り、健康食品などについて理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	食中毒について学ぶ。 食中毒の分類について調べること。 授業内容について振り返り、食中毒の予防・対策について理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	食品添加物、食品保存法について学ぶ。 どんな食品添加物があるのかについて調べること。 授業内容について振り返り、食品添加物・保存法について理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	バイオテクノロジー I について学ぶ。 青いバラについて調べること。 授業内容について振り返り、遺伝子組み換えについて理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	バイオテクノロジー II について学ぶ。 遺伝子組み換えの方法、安全性について調べること。 授業内容について振り返り、遺伝子組み換え食品の安全性について理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	食と環境、残留農薬(沈黙の春)について学ぶ。 『沈黙の春』およびその作者について調べること。 授業内容について振り返り、残留農薬について理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	食と環境、環境ホルモン(奪われし未来)について学ぶ。 『奪われし未来』およびその作者について調べること。 授業内容について振り返り、環境ホルモンについて理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	香料(フレーバー、フレグランス)について学ぶ。 フレーバー、フレグランスについて調べること。 授業内容について振り返り、香料について理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	アロマセラピーの入門知識について学ぶ。 生体の恒常性について調べること。 授業内容について振り返り、アロマセラピーについて理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	精油の基礎知識について学ぶ。 精油の種類について調べること。 授業内容について振り返り、精油について理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、これまでの内容を振り返る。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について理解を深める。

科目名	生活科学概論 II		科目コード	SI218	
英文名	Outline of Life Science II		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	市川 遥夏	教員コード	134	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日/4時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☒	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う	☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	衣・住と生活に加え、香料と生活、森林浴と環境、化粧品の科学など現代の生活に密接に関係する課題について解説し、実生活にどう生かすかを説明する。				
授業の狙い・到達目標	生活科学の知識を身に付け、生活全般の諸課題を解決し、地域社会に貢献する力を養成することができる。また、具体的課題ではアロマセラピーの知識を身につけることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	日常の生活を通じて、科学的な面から理解し、自然災害など身近な生活課題との付き合い方について自ら考えることが大切である。人間文化演習(生活科学分野)を履修予定の学生は、この授業を学習することが望ましい。				
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深める。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。				
参考書・その他教材	公益社団法人日本アロマ環境協会著 『アロマセラピー検定公式テキスト 1級・2級』 世界文化社 ; 田上八朗ら監修 『化粧品科学ガイド 第2版』 フレグランスジャーナル社				
課題に対するフィードバック	課題に対してその場でフィードバックを行う。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。				
成績評価方法	課題(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)				

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方、香りと暮らしなどについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	天然香料と合成香料について学ぶ。 香料の種類について調べること。 授業プリントを用いて香料について振り返り、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	森林浴と環境などについて学ぶ。 フィトンチッドについて調べること。 授業プリントを用いて森林浴について振り返り、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	皮膚の構造と機能などについて学ぶ。 皮膚の構造について調べること。 授業プリントを用いて化粧品の科学について振り返り、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	紫外線が皮膚に及ぼす影響について学ぶ。 赤外線と紫外線の違いについて調べること。 授業プリントを用いて皮膚と老化について振り返り、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	スキンケア、紫外線ケア、美白ケア化粧品などについて学ぶ。 コラーゲンとヒアルロン酸の違いについて調べること。 授業プリントを用いて化粧品の役割・機能性について振り返り、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	アロマセラピーの歴史について学ぶ。 アロマセラピーの歴史について調べること。 授業プリントを用いてアロマセラピーの歴史について振り返り、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	精油の科学などについて学ぶ。 精油のメカニズムについて調べること。 授業プリントを用いて精油の効能・メカニズムについて振り返り、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	アロマセラピーの利用法などについて学ぶ。 精油の各利用法について調べること。 授業プリントを用いてアロマセラピーの楽しみ方について振り返り、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	アロマセラピーの安全性について学ぶ。 光毒性について調べること。 授業プリントを用いてアロマセラピーを楽しむための注意点について振り返り、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	衣服材料の科学、衣服の着用感などについて学ぶ。 衣服材料の分類について調べること。 授業プリントを用いて衣服の科学について振り返り、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	洗剤の科学について学ぶ。 界面活性剤について調べること。 授業プリントを用いて洗剤について振り返り、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	住宅材料の科学、住まいの環境、文化などについて学ぶ。 住宅材料の種類について調べること。 授業プリントを用いて住宅の科学について振り返り、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	住宅と災害対策について学ぶ。 防震と耐震について調べること。 授業プリントを用いて住宅の災害予防について振り返り、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、これまでの内容を振り返る。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について理解を深めること。

科目名	社会福祉論			科目コード	SI219		
英文名	Social Welfare			科目区分	【専門科目】 導入科目(必修)		
担当教員	鈴木 智子		教員コード	164		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		☒	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する		☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	社会福祉の理念と意義、現代社会の特質とこれに対応した社会福祉の諸分野・サービスの提供方法について学ぶ。また、社会福祉従事者の現状、連携の基盤や支援の実際、社会福祉をめぐる日本と諸外国の動向について理解する。						
授業の狙い・到達目標	到達目標①:社会福祉の理念と意義について理解し、社会福祉の対象を説明できる。 到達目標②:ライフステージと社会福祉制度の関わりを、学んだ用語を用いて説明できる。 到達目標③:生活上の課題事例について、社会福祉の資源を活用して解決を提示できる。						
授業内容のレベル・関連科目	自身や家族の普段の生活を通じて、福祉について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。						
授業外学習(予習・復習)	事前学習:社会福祉に関するニュースに関心を持ち、専門用語(キーワード)を調べる。 事後学習:授業で学んだことを復習して、次回の授業に備える。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	毎回、資料を配布する。						
参考書・その他教材	大久保秀子『新社会福祉とは何か(第4版)』中央法規 志濃原亜美編集『みらい×子どもの福祉ボックス 社会福祉[第2版]』みらい						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート・課題(30%)、授業中の発言・意見・発表内容(30%)から総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。一部で体験型の授業を行う。						
科目に関連した教員の実務経験	○県・市町での児童福祉事務・市での障害福祉課管理職業務(経験) ○児童相談所・保健福祉総合相談・家庭児童相談室・地域包括支援センターでソーシャルワーカーとしての実践(経験) 特に実務経験で得た知識に基づく授業内容は★印を付して下線を引いている。						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:suzukit@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション・「社会福祉論」へのアプローチ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	現代社会の特質(人口・地域・家族の変化・貧困・虐待・社会的孤立など)と社会福祉の理念 日本の人口や家族構成の変化について、これまでとこれからの見通しを確認しておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
3 回	学習内容 予習 復習	日本と欧米における社会福祉の歴史と各国の取り組み 社会福祉の歴史と取り組みについて調べてくる。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
4 回	学習内容 予習 復習	社会福祉の法制度と行政機関・サービスの利用方法 社会福祉に関する法律について調べてくる。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
5 回	学習内容 予習 復習	社会保障制度・ライフステージ別の福祉体系 社会福祉には、どのような分野があるのかを調べておく。 授業内容について振り返り、これをレポートにまとめ提出する。
6 回	学習内容 予習 復習	生活の困窮と生活保護制度 現代社会の生活困窮の問題について調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
7 回	学習内容 予習 復習	★高齢者の生活と福祉・介護保険や地域包括ケアシステム 高齢者の定義・住んでいる市区町村のホームページなどから、介護保険について調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
8 回	学習内容 予習 復習	★障がい者の自立と福祉・障がい者へのサービス 障がいには、どのような種類があるのかを調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
9 回	学習内容 予習 復習	★児童家庭福祉・子どもの権利 子どもに関する新聞記事やニュースを調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
10 回	学習内容 予習 復習	地域福祉と地域共生社会 地域共生社会とは何かを調べておく。 授業内容について振り返り、これをレポートにまとめ提出する。
11 回	学習内容 予習 復習	社会福祉従事者(ソーシャルワーカー以外)と資格制度・多職種連携 福祉の仕事にはどのような種類があるのかを調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
12 回	学習内容 予習 復習	★ソーシャルワーカー・ソーシャルワークの展開過程・相談援助(体験談) ソーシャルワーカーとはどのようなことをする職種なのかを調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
13 回	学習内容 予習 復習	★困りごとの相談受理の実際(ロールプレイ) 人の困りごとの相談にのった経験があるか、ある場合、どのように受け答えしたかを振り返る。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
14 回	学習内容 予習 復習	社会福祉をめぐるテーマ(キーワード:社会的包摂、エンパワメント、制度の狭間、伴走型支援) テーマのキーワードについて調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り 近年、話題となっている社会福祉関連のトピックスについて調べておく。 全15回の授業を振り返り、社会福祉についての諸課題をレポートにまとめ提出する。

科目名	自然科学と経済社会（自然科学と人間）		科目コード	SI320	
英文名	Natural Sciences and Economic Society (Introduction to Natural Sciences)		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	呉 鷹	教員コード	157	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・4時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☒	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	自然科学の進歩は著しく人間の生活・生産、経済・社会、自然環境に大きな影響を与えている。本講義での学習を通じて、自然科学が人間活動と自然環境に与える影響力を理解し、自然科学がもたらしたプラスの影響とマイナスの影響を考えるための基礎を養う。本講義では、持続可能な社会の構築という視点からも考察を行う。				
授業の狙い・到達目標	自然科学の基礎知識を理解し、持続可能な社会の構築に対して自分で考えることができるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	本講義は、自然科学に関する入門編であるが、自然科学と社会発展の関係性を考える力が身に付く科目でもある。 本講義は、本学にある数少ない自然科学関連の科目である。				
授業外学習(予習・復習)	予習:積極的に配布資料等の予習を行う。 復習:配布資料等を復習し、基礎知識と考え方を身につけるように振り返る。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	担当教員が作成する配布資料 古川安著『科学の社会史:ルネサンスから20世紀まで』ちくま学芸文庫(2018)				
参考書・その他教材	参考書(授業のための購入は不要) 宮本憲一著『環境経済学』岩波書店(2007) 三浦慎悟著『動物と人間:関係史の生物学』東京大学出版会(2018)				
課題に対するフィードバック	翌週の授業時に解説を行う。				
成績評価方法	期末試験(70%)、課題提出と授業中の発表(20%)、平常点(10%)				
成績評価基準	講義内容への理解度、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	社会活動、自然現象と自然科学の関連性について自分なりに考える必要がある。考える力を養うことが大事である。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)あるいは対面で対応する。メールの場合、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。対面の場合、授業終了後あるいはオフィスアワー(新年度に掲示)に対応する。				

授業スケジュール

自然科学と経済社会（自然科学と人間）

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、自然科学に対する基本認識、基礎力テストと講評 シラバスを事前に確認する。 配布資料と基礎力テストの内容を復習し、学習のポイントと目標を明確にする。
2 回	学習内容 予習 復習	自然科学とは何か 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、自分の考えと感想を400字でまとめて次回の授業で発表する。
3 回	学習内容 予習 復習	自然科学と農業 その1 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、農業と自然科学の関連性を考える。
4 回	学習内容 予習 復習	自然科学と農業 その2 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、農業と自然科学の関連性について考えを深める。
5 回	学習内容 予習 復習	農業と公害、緑の革命、環境保全型農業 配布資料を予習し、事例に関して事前に調べる。 配布資料等を復習し、農業がもたらした公害問題と自然科学の関連性を考える。
6 回	学習内容 予習 復習	自然科学と工業化 その1 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 配布資料等を復習し、工業の発展と自然科学の関連性を考える。
7 回	学習内容 予習 復習	自然科学と工業化 その2 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 配布資料等を復習し、工業の発展と自然科学の関連性について考えを深める。
8 回	学習内容 予習 復習	工業の発展と公害問題(産業革命から現代まで) 配布資料と教科書の指定ページを予習し、事例に関して事前に調べる。 工業化がもたらした公害問題と自然科学の関連性を考え、発表内容を作成する。
9 回	学習内容 予習 復習	前半(第1回から第8回まで)の復習、履修生による発表 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 第1～8回の配布資料等を復習し、自分の考えを深めるようにレポートを作成する。
10 回	学習内容 予習 復習	生物学とその功罪 その1(遺伝子組み換え問題) 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、遺伝子組み換えのメリットとデメリットについて考える。
11 回	学習内容 予習 復習	生物学とその功罪 その2(感染症とワクチン) 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、生物学のプラスの側面とマイナスの側面について考えを深める。
12 回	学習内容 予習 復習	自然科学と気候変動(地球の温暖化) 配布資料を予習する。 配布資料等を復習し、自然科学と気候変動の関連性を考え、次回の授業で発表する。
13 回	学習内容 予習 復習	自然科学と再生エネルギー 配布資料を予習する。 配布資料等を復習し、自然科学、再生エネルギーと気候変動の関連性を考える。
14 回	学習内容 予習 復習	生物の多様性と持続可能な社会 配布資料を予習する。 生物多様性、自然科学と持続可能な社会の構築の関連性を考える。
15 回	学習内容 予習 復習	総括(第1回から第14回までの要点整理)、履修生による発表 第1～14回の講義内容を復習し、発表内容を作成する。 これまでの配布資料等を復習し、自然科学と人間活動の相互作用について考えを深める。

科目名	グローバルヒストリー概論（社会経済史）		科目コード	SI321	
英文名	Outline of Global History (Socio-Economic History)		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	中村 壘	教員コード	138	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☒	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	今から500年以上前の大航海時代から現代に至るまでのグローバル・ヒストリー、中でもヨーロッパとアジアの関係に注目する。ヒト・モノ・カネ・情報は地球の上でどのような動きをしてきたのか、また日本は世界とどのような関係を持ってきたのかについて講義する。				
授業の狙い・到達目標	貧困や飢餓、環境の悪化といった国や地域を超えたグローバルな問題が形成されてきた歴史的過程について理解できるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目：農業史				
授業外学習(予習・復習)	講義レジュメに沿って授業を進める。したがって予習として事前に目を通し、復習として授業後に再度見直すこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	特になし				
参考書・その他教材	杉山伸也(2014)『グローバル経済史入門』岩波書店 平賀緑(2021)『食べものから学ぶ世界史』岩波書店 講義レジュメを配布する。				
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。				
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	疑問点や不明点をそのままにせず、担当教員に必ず質問すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7				

授業スケジュール

社会経済史（現代の経済）

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	アジア域内交易と大航海時代 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	近世東アジアの国際環境①中国 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	近世東アジアの国際環境②日本 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	インドの植民地下とイギリス 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	イギリス産業革命 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	「パクス・ブリタニカ」の時代 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	アジアの近代化①(中国・タイ) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	アジアの近代化②(日本) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	アジア経済のモノカルチャー化と再編 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	両大戦間期の世界経済 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	両大戦間期の日本経済 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	戦後世界経済の再建と動揺 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	グローバル経済の現在 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科目名	ちばの歴史(協同組合論)			科目コード	SI322	
英文名	History of Chiba (Studies of Cooperative Associations)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	中村 壘		教員コード	138	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☒	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する		☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	協同組合は人間らしい生き方・労働を追求する組織といわれ、今後めざすべき経済の姿との見方もある。本授業では主に千葉県における協同組合の歴史に注目し、協同組合の起源や近代以降の展開について講義する。					
授業の狙い・到達目標	協同組合の理念・歴史・現状について理解する。 大学が立地する千葉県についての理解を深める。					
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目:農業経済学・農業史					
授業外学習(予習・復習)	講義レジュメに沿って授業を進める。したがって予習として事前に目を通し、復習として授業後に再度見直すこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	木村礎編(1981)『大原幽学とその周辺』八木書店 渡辺尚志(2013)『近世百姓の底力』敬文舎 日本農業新聞編(2017)『協同組合の源流と未来』岩波書店 その他の参考書については講義中に紹介する。 レジュメを配布し、それに沿って講義を進める。					
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。					
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	疑問点や不明点をそのままにせず、担当教員に必ず質問すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7					

授業スケジュール

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	協同組合とはなにか 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	千葉の村落社会から協同組合発展の背景を探る 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	大原幽学による先祖株組合 I 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	大原幽学による先祖株組合 II 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	二宮尊徳と報徳社-大原幽学による先祖株組合との比較- 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	明治期千葉の農村社会-農会に注目して- 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	大正期千葉の農村社会-農民組合に注目して- 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	北海道・鹿児島の農村社会-千葉の農村社会との比較- 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	戦時期千葉の農村社会-農業団体の整備・統合に注目して- 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	戦後千葉における農業協同組合の展開 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	千葉の漁業と漁業協同組合 I 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	千葉の漁業と漁業協同組合 II 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	現代千葉のさまざまな協同組合 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科目名	現代社会論（社会学概論）			科目コード	SI323	
英文名	Modern Society (Outline of Sociology)			科目区分	【専門科目】 導入科目（選択）	
担当教員	晨 晃		教員コード	209		単位数 2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	我々は社会という客観的な環境の中で生きている。この社会を研究する学問である社会学につき、その基本概念、諸理論、研究分野、また学問の歴史を学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	本講義では、社会学の基礎知識を身に付け、特に人間の相互行為との関係を理解していくことを狙いとして進めたい。社会とは何か、人々の社会行為とは何かについて学び、社会人の自覚性を身に付けられるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	社会学は人と社会の関係に関する学問である。学習を通して社会生活により適応できるような人間になることが重要である。関連科目は特になし。社会学関連では唯一の科目なので、興味のある学生の積極的な受講を希望する。					
授業外学習（予習・復習）	授業の前に教科書を読み、授業後、授業の内容について質問や感想文をまとめて提出する。次回の授業で解答や意見交換を行う。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	富永健一 『社会学講義一人と社会の学』 中央公論社					
参考書・その他教材	毎日のニュースに注目すること					
課題に対するフィードバック	教科書の一章ごとに課題を考えさせ、レポートとして提出されたものに解答・解説をする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	期末レポート(40%)、課題(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to: hayashi@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——授業の目的と内容、授業の進め方などについて説明する。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること
2 回	学習内容 予習 復習	第一章社会の学としての社会学 第一節社会学とは何かについて学ぶ。 社会という概念について調べ、理解すること(教科書の第一章第一節を読む) 社会学の定義について振り返り、これをレポートとして提出すること
3 回	学習内容 予習 復習	第一章第二節社会学の研究対象について学ぶ。 ミクロ社会、マクロ社会の関係を調べ、理解すること(第一章第二節を読む) 社会と文化、社会と環境の関係について振り返り、レポートを提出すること
4 回	学習内容 予習 復習	第一章第三節社会学の研究諸部門について学ぶ。 研究対象と研究方法について調べ、理解すること(第一章第三節を読む) 社会学の研究所部門について振り返り、レポートを提出すること
5 回	学習内容 予習 復習	第二章理論社会学 第一節ミクロ社会について学ぶ。 人間の行為について調べ、理解すること(教科書の第二章第一節を読む) 社会学におけるミクロレベルの研究について振り返り、レポートを提出すること
6 回	学習内容 予習 復習	第二章第二節マクロ社会学(1)社会システム構造論について学ぶ。 社会システムの諸類型について調べ、理解すること(第二章第二節を読む) 社会構造論の研究について振り返り、レポートを提出すること
7 回	学習内容 予習 復習	第二章第三節マクロ社会学(2)社会システム変動論について学ぶ。 社会構造と社会変動の関係について調べ、理解すること(第二章第三節を読む) 社会変動の内容——近代化について振り返り、レポートを提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	第三章領域社会学と経験社会学 第一節領域社会学について学ぶ。 内包的、外延的領域社会学について調べ、理解すること(第三章第一節を読む) 自分の領域社会学を選べ、レポートを提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	第三章第二節経験社会学(1)社会調査について学ぶ。 社会学の経験的特性について調べ、理解すること(第三章第二節を読む) 自分の社会調査テーマを選べ、レポートを提出すること
10 回	学習内容 予習 復習	第三章第三節経験社会学(2)計量社会学について学ぶ。 調査データの意味、変数などについて調べ、理解すること(第三章第三節を読む) 計量社会学の意義について振り返り、レポートを提出すること
11 回	学習内容 予習 復習	第四章社会学史の主要な流れ 第一節前史と社会学第一世代について学ぶ。 西洋と日本の社会学者の第一世代について調べ、理解すること(教科書の第四章第一節を読む) 社会学の発生について振り返り、レポートを提出すること
12 回	学習内容 予習 復習	第四章第二節社会学第二世代について学ぶ。 第二世代の社会学者たちについて調べ、理解すること(第四章第二節を読む) 社会学第二世代の理論について振り返り、レポートを提出すること
13 回	学習内容 予習 復習	第四章第三節現代社会学の諸潮流について学ぶ。 現代社会学の諸理論について調べ、理解すること(第四章第三節を読む) 現代社会学の諸理論について振り返り、レポートを提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	まとめ1——ミクロ社会学の理論とマクロ社会学の理論について復習する。 現実問題と理論の関係について調べ、理解すること ニュースに関して、社会学の説明をレポートとして提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ2——社会学史の流れについて復習する。 時代と社会学の関係について調べ、理解すること 全15回の授業を振り返り、社会学の研究についての諸課題をとりまとめること

科目名	現代の経済（経済学概論）		科目コード	SI324	
英文名	Contemporary Economy (Outline of Economics)		科目区分	【専門科目】 導入科目（選択）	
担当教員	中村 壘	教員コード	138	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☒	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	消費者や企業の行動、市場メカニズムの動きを説明するミクロ経済学と、経済全体の動きを把握し、政府の経済政策のあり方を議論するマクロ経済学の基本について学ぶ。				
授業の狙い・到達目標	経済的なものの見方を獲得し、経済に関するニュースや新聞記事を理解できるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては入門レベルである。 関連科目：社会科学と人間				
授業外学習（予習・復習）	講義レジュメに沿って授業を進める。したがって予習として事前に目を通し、復習として授業後に再度見直すこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	特になし				
参考書・その他教材	小塩隆士(2024)『高校生のための経済学入門[新版]』筑摩書房 坂井豊貴(2017)『ミクロ経済学入門の入門』岩波書店 講義レジュメを配布する。				
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。				
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	疑問点や不明点をそのままにせず、担当教員に必ず質問すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7				

授業スケジュール

経済学概論（現代経済入門）

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	経済学という学問 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	需要と供給 I 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	需要と供給 II 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	市場メカニズム I 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	市場メカニズム II 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	市場と政府 I 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 教員の指示に従って、レポートを作成すること
8 回	学習内容 予習 復習	市場と政府 II 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	GDP 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返ること
10 回	学習内容 予習 復習	金融政策 I 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	金融政策 II 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	税金と財政 I 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	税金と財政 II 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	世界経済 I 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	世界経済 II 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること

科目名	社会と法律（法律学概論）		科目コード	SI325	
英文名	Society and Law (Outline of Law)		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	太田和 良幸	教員コード	154	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・4時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☒	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	社会における法の役割を理解するとともに、日常生活で遭遇する可能性のある各種の法的事案について、具体的事例に沿って学習することにより、法に親しみ、法の理解を促進する。				
授業の狙い・到達目標	法律や条例についての理解を深め、日常生活で遭遇する事案やマスコミなどで報道される種々の事案について、法の観点から興味を持ち、考えられるようになることを目指す。 日常生活に関連する具体的な事例を通して、法に関する基礎的な知識を獲得するとともに、社会問題の解決方法について法的に考察する力を身に付けることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	高等学校の社会科などの知識が必要であり、これらが基礎となる。 本授業の履修に当たっては、「日本国憲法」の内容を理解していることが望ましい。				
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り(復習し)、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジュメなどを配布する。				
参考書・その他教材	池田真朗・犬伏由子・野川忍他『法の世界へ 第7版』有斐閣アルマ e-Gov法令検索（web上で提供される日本の法令の検索・閲覧システム）				
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。				
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日常生活の中で法について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。				
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員(内閣府、文部科学省、外務省に勤務) 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回(学習内容欄)には、★印を付して下線を引いてある。				
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること				

授業スケジュール

社会と法律（法律学概論）

1 回	学習内容 予習 復習	【イントロダクション】 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2 回	学習内容 予習 復習	社会規範と法の関係並びに法制度の概要について学ぶ。 社会規範の中の法の役割について調べ、理解を得ること 授業内容(法制度の概要)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
3 回	学習内容 予習 復習	多くの人が経験する「婚姻」についてその意味、法律的效果を学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(婚姻の成立と効力)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
4 回	学習内容 予習 復習	「成年」について、その意味、法律的效果を学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(青年と未成年)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
5 回	学習内容 予習 復習	住まいを借りた時に生じる諸問題について法律的観点から学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(住まいと賃貸契約)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
6 回	学習内容 予習 復習	インターネット使用時に遭遇する可能性のある詐欺事案について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(インターネット上の詐欺)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
7 回	学習内容 予習 復習	インターネット上で陥りやすい権利侵害の事案について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(インターネット上の権利侵害)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	情報化社会にあって「情報」の取扱いに関して注意すべき点について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(情報公開と個人情報保護)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	★知的財産権がインターネット上でどのように保護されているかについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(インターネットと知的財産権)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
10 回	学習内容 予習 復習	消費者契約上でどのように消費者の利益が保護されているかについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(消費者契約と消費者保護)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
11 回	学習内容 予習 復習	友人間での感情的対立が引き起こすトラブルの法律的效果について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(友人間でのトラブル)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
12 回	学習内容 予習 復習	★各種の迷惑行為と各都道府県が制定する条例との関係について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(迷惑行為と条例)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
13 回	学習内容 予習 復習	自動車運転に関する法制と事故時の責任等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(自動車運転と責任)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	アルバイトで経験する労働環境と労働法との関係について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(アルバイトと労働法)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	【まとめ】法制度における今日的課題について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 全15回の授業を振り返り、法制度の今日的諸課題をとりまとめること

科目名	環境と社会（環境学概論）		科目コード	SI326	
英文名	Environment and Society (Introduction of Environmental Studies)		科目区分	【専門科目】 導入科目（選択）	
担当教員	岡庭 義行	教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐ 1.大学生としての幅広い教養を身につける			☐ 2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☒ 3.論理的・批判的なものの見方を養う		☐ 4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐ 5.学習の過程で発見した課題を探求する			☐ 6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	「環境問題」とは、私たちを取り巻くさまざまな事象が複雑に絡みあう問題群であり、環境学とは、これらの問題群の本質を学際的に解明し、その解決を目的とした学問領域の1つである。本講では、環境学を学ぶ上で必要な基礎的概念や思考、対象事例の解説を中心に行う予定である。				
授業の狙い・到達目標	[到達目標①]環境問題の現象・発生原因や、その影響等について説明することができる。 [到達目標②]資源が有限であることを理解し、地球環境の変化について説明することができる。 [到達目標③]グローバル化する国際社会の一員であるという自覚を持ち、気候変動等の国際的課題と政策に関する社会的な動向等について俯瞰的にとらえることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	基礎的知識の習得とともに、身近な環境問題から海外事例まで幅広い視野と柔軟な思考が求められる。また、多様な環境問題が社会や経済に及ぼす影響や、環境影響評価なども解説する予定である。 [関連科目]「環境政策学」「環境社会学」「生活環境学」				
授業外学習(予習・復習)	[事前学習]シラバスの内容に沿って、自身の関心や疑問を学習ノートに記録し、自己の考えを醸成することが望ましい。学習ノートは箇条書きでも概念図でも、自身に合った自由な形式でよい。 [事後学習]事前にノートにまとめた事項と、講義を受けた後の考えを比較するなどして振り返り、理解の深化に努めること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中に適宜プリントを配布する。				
参考書・その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』(PDF) ・北川秀樹・増田啓子著『新版はじめての環境学』法律文化社(2018) ・京都大学で環境学を考える研究者たち『環境学-21世紀の教養-』朝倉書店(2014) 				
課題に対するフィードバック	筆記試験、小レポート、リアクションペーパーにはコメントを付して返却する。				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標①②③に関する筆記試験(70%)、 ・到達目標②③に関する小レポート・リアクションペーパー(20%)、 ・講義の参加状況(10%) 				
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	毎回の講義において、自身なりの課題設定、具体的な課題解決を意識すること。環境問題にかかわる課題は社会や経済にも影響を及ぼすため、複眼的かつ微視的な視野を持ちながら学習をすることが期待される。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー環境問題の同時代性ー シラバスを読み、自己の関心事や疑問点、身近で起きている問題との関連などをイメージしておく。 配布物やガイダンスの内容を復習すること。環境問題について自身なりの課題設定を行うこと。
2 回	学習内容 予習 復習	環境問題と持続可能な開発 環境問題と持続可能な開発との関係について予め調べておくこと。 配布物、板書やスライド等を復習し、環境問題と持続可能な開発について理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	日本の環境問題の歴史 公害問題と対策 公害問題が、日本の環境、地域住民、社会にどのような影響を及ぼしたのかを調べておく。 配布物、板書やスライド等を復習し、新たな発見やさらに調べてみたい事項について振り返る。
4 回	学習内容 予習 復習	世界の環境問題の歴史「共通だが差異ある責任」、環境移民 世界で起きている環境問題を概観しておく。矛盾や対立の視点があることにも目を向けておくこと。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
5 回	学習内容 予習 復習	身近な環境問題① 消費行動と環境問題 プラスチックごみ、ファストファッション、食品ロス 私たちの消費行動がいかなる環境影響を及ぼしているかについて調べておくこと。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
6 回	学習内容 予習 復習	身近な環境問題② 環境問題をめぐる市民の意識と行動 環境問題をめぐる市民の意識（環境意識・世論調査等）と実際の行動等について事例を調べる。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
7 回	学習内容 予習 復習	環境問題と政策 地域の環境政策から地球規模の環境政策へ 日本の環境問題への政策がどのように変遷していったかについて調べる。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
8 回	学習内容 予習 復習	社会と環境問題 環境問題の影響・被害の社会的構造、環境教育、被害者救済 環境問題を社会的側面から捉えるとはどういうことかについて事前学習を行う。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
9 回	学習内容 予習 復習	経済と環境問題 企業の環境配慮 働き方改革 企業の環境対応やその効果、働き方改革による環境への影響について調べる。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
10 回	学習内容 予習 復習	ジェンダー平等と環境問題 自然災害・環境問題と防災 環境問題がジェンダー平等を損なう恐れのある事例について調べる。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
11 回	学習内容 予習 復習	地域・コミュニティの取り組み事例 廃棄物問題、ブランド米 まちづくりの実践において、環境への配慮が認められる事例を収集しておくこと。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
12 回	学習内容 予習 復習	環境政策 政府、自治体の役割 ガバナンス 環境問題に対処するための立案・課題、法整備などについて事前学習を行う。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
13 回	学習内容 予習 復習	環境影響評価手法 エコロジカルフットプリント 環境問題を数値化する試みにどのようなものがあるのか、その歴史も含めて事前学習を行う。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
14 回	学習内容 予習 復習	SDGsと環境問題、脱炭素社会へ向けて 再生可能エネルギー 再生可能エネルギーにおける社会の取り組みや、多様な意見や見解があることを調べておくこと。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
15 回	学習内容 予習 復習	環境・経済・社会の諸課題の統合的解決とは SDGsやパリ協定と、環境・経済・社会の諸課題を統合的に解決することの関係性を概観する。 講義内で解説した諸課題についての具体的取組について復習したうえで講義の総括を行う。

科目名	生涯学習論		科目コード	SI327	
英文名	Studies on Lifelong Learning		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	太田和 良幸	教員コード	154	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・4時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う	☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する	☒	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	生涯学習の意義、生涯学習の方法と内容、関係施設と職員の役割などについて学ぶ。また、新たな学習方法や地域社会、高齢化社会における生涯学習の役割など生涯学習の今日的な課題について考察し、理解を深める。				
授業の狙い・到達目標	人が生涯にわたって学習し続けることの意義と重要性、並びにその方法などについて理解を深めるとともに、住民の生涯学習活動と地域づくりの関連を理解し、地域における生涯学習環境の在り方を考えることをねらいとする。 各自のライフスタイルに適したそれぞれの学び方を学修し、社会生活を豊かに過ごすために主体的に学んでいく力を獲得することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	社会教育士などになるための基礎的レベルであり、学習活動・文化活動やグループワークによる協同学習に関心と意欲があることが望まれる。 関連科目:まちづくり論、福祉政策学				
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り(復習し)、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジユメなどを配布する。				
参考書・その他教材	「生涯学習のイノベーション」 笹井宏益・中村香著 玉川大学出版部				
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。				
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。				
科目に関連した教員の実務経験	文部省生涯学習局勤務、文化庁勤務、国立博物館勤務、社会教育主事講習講師 授業は全て上記の職務経験に基づき実施される。				
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること				

1 回	学習内容 予習 復習	【イントロダクション】 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておく。 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行う。
2 回	学習内容 予習 復習	「学び」とはどのようなものなのか、「学び」の意義について理解する。 これまで学校以外で自分が学んできたこと、これから学びたいことを整理する。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
3 回	学習内容 予習 復習	ライフスタイルと「学び」（「学び」の生涯設計）について学ぶ。 社会人になった時、高齢期など今後予想されるライフスタイルと学びについて考える。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
4 回	学習内容 予習 復習	「学び」を支える施設の役割と機能について学ぶ。 主として学びのために造られている施設にはどのようなものがあるか調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
5 回	学習内容 予習 復習	地域学習センター（公民館）について学ぶ。 身近にある公的学習センター（公民館など）を調べ、その機能と役割について整理する。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
6 回	学習内容 予習 復習	図書館について学ぶ。 学びにおける書籍の役割、現代の図書館の役割について調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
7 回	学習内容 予習 復習	博物館について学ぶ。 博物館とはどのような施設か、その利用方法について調べてくる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
8 回	学習内容 予習 復習	生涯学習施設の活動事例について学ぶ。 公民館などで実際に行われている学習活動事例等を調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
9 回	学習内容 予習 復習	公的セクター（都道府県・市町村）が実施している学習プログラムについて学ぶ。 都道府県や市町村が実施している学習プログラムの事例を調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
10 回	学習内容 予習 復習	民間事業者の提供する学習プログラムについて学ぶ。 カルチャーセンター、私塾、スポーツクラブ等の学習プログラムの特徴について調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
11 回	学習内容 予習 復習	体験型学習の意義について学ぶ。 自然体験や勤労体験ができる場所、プログラムを調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
12 回	学習内容 予習 復習	ICTを活用した新しい学習方法について学ぶ。 通常の授業とは異なる、ICTを活用した新しい学習方法、プログラムについて調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
13 回	学習内容 予習 復習	ボランティア活動、NPO、「新しい公共」、社会的資本について学ぶ。 住民が自主的に行っているボランティア活動等と学習との関係について事例を調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
14 回	学習内容 予習 復習	地域文化活動、まちづくり、地域共生と「学び」について学ぶ。 地域における文化活動・学習活動が地域づくり、まちづくりに役立っている事例を調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
15 回	学習内容 予習 復習	【まとめ】 生涯学習の今日的諸課題について学ぶ。 学びについての今日的課題（評価、成果の活用、費用など）について調べる。 全15回の授業を振り返り、生涯学習の今日的諸課題についてとりまとめる。

科目名	情報科学概論		科目コード	SI428	
英文名	Outline of Information Sciences		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	日坂 彰	教員コード	137	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☒	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	情報科学概論は、情報科学の基礎やコンピュータやインターネットの仕組み及び原理を学習する。特に、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアについて、その詳細を学習する。				
授業の狙い・到達目標	情報科学概論は、情報科学の基礎を学び、情報系専門科目の情報システム論、セキュリティ概論、プログラミング基礎等の基礎となる内容を学習する。コンピュータの内部処理やインターネットの仕組みや原理を学習する。併せて情報セキュリティや情報関連の法律についても学ぶ。情報系専門科目を履修するうえで必要な知識を習得できる。				
授業内容のレベル・関連科目	授業内容は情報資格試験のITパスポート試験合格レベルの内容である。身の回りや社会の基盤となっている情報システムに関心をもつことが重要である。情報システム論やセキュリティ概論を併せて学習することが望ましい。関連科目は、コンピュータ科目全般である。				
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画にある学習項目や教員から指示された予習項目について教科書で予習することが必要である。学習した技術用語は専用ノートを用意し記録し、いつでも復習できるようにする。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	安藤明之『最新情報処理概論 改訂版』実教出版				
参考書・その他教材	IT用語辞典(インターネット版)				
課題に対するフィードバック	課題毎に点検、フィードバックを行う。				
成績評価方法	レポート(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規定に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	授業中に専門用語や情報関連の技術用語が多数使用されるので、ネット上のIT用語辞典等で予習復習を行い、ノートに記録すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org				

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、情報科学概論の概要、社会と情報システムの役割 シラバスを読み、授業の概要について概ね理解しておくこと、 授業の目的、授業の進め方等を振り返り、到達目標を理解し次週からの授業に備える
2 回	学習内容 予習 復習	情報科学の基礎、情報量や通信速度の単位。基礎技術用語等について学ぶ 自分の携帯電話の記憶容量を調べておく、教員から提示された予習項目をテキストで調べること 授業で使われた技術用語を専用ノートを用意し、整理記録し復習すること
3 回	学習内容 予習 復習	情報科学の基礎、情報量や通信速度の単位。情報の要素等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、情報の種類や形式についても予習すること 画素、ピクセル、4K、8Kなど情報量の計算方法について復習し、ギガ、テラ、ペタなど単位を復習
4 回	学習内容 予習 復習	情報科学の基礎、アナログ信号とデジタル信号、A/D変換、デジタル化の利点等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、なぜデジタル化の利点について予習する 文字、音声、画像、動画のデジタル化の方式について復習すること。情報圧縮方法を復習する
5 回	学習内容 予習 復習	コンピュータの歴史、ノイマン方式について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、併せてノイマン方式について予習すること コンピュータはどのように進歩したのかバベジの解析機関からスマホまで技術の変遷を復習する
6 回	学習内容 予習 復習	コンピュータの5大機能、コンピュータやメモリーの仕組みや役割について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、併せて命令の取り出し実行までの流れを予習 コンピュータの仕組みやプログラムの実行・処理を復習する。
7 回	学習内容 予習 復習	コンピュータの内部処理、ソフトウェア体系、基本ソフト(OS)の役割等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、ソフトウェアの体系について予習する 基本ソフト(OS)の役割について復習し、ハードとソフトの構成やコンピュータの性能の違いを復習
8 回	学習内容 予習 復習	命令と処理システム、プログラム言語、アセンブラ等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、言語プロセッサの種類について予習する 高水準言語、低水準言語、アセンブラ、機械語及びインタプリタやコンパイラについて復習
9 回	学習内容 予習 復習	コンピュータと情報システム、集中処理と並列処理、情報システムと安全等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、デュアルシステム、デュプレックスシステムを予習 ネットワークの進展と分散処理の進化について、併せてクラウドコンピューティングの利点を復習する
10 回	学習内容 予習 復習	情報ネットワークの仕組み、インターネットの基本プロトコル、パケット通信、IPアドレス等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、蓄積交換方式、回線交換方式について予習 パケット通信方式について復習し、利点、欠点について復習する
11 回	学習内容 予習 復習	インターネットの仕組み、DNS・IPアドレス・ポート番号等の役割 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、併せてIPアドレスやDNSの役割を予習すること グローバルアドレス、プライベートアドレスの仕組み、NATについて復習すること
12 回	学習内容 予習 復習	WANとLAN、ルータの役割、経路情報の仕組み等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、LANを構成する機器について予習すること LAN間通信のしくみ、MACアドレス、ARP等のしくみについて復習すること
13 回	学習内容 予習 復習	情報セキュリティ、情報資産、マルウェアの特徴、セキュリティポリシー等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、情報セキュリティの3要素について予習すること 情報セキュリティとリスク管理、リスク軽減の各種方策について復習すること
14 回	学習内容 予習 復習	情報ネットワークの安全対策、暗号化、複合化、ファイヤーウォール等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、マルウェアの種類や暗号化について予習する 暗号化、複合化、共通鍵方式、SSL方式等について復習すること
15 回	学習内容 予習 復習	個人情報や著作権、情報関連の法律について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、情報関連の法律をインターネットで検索し予習 個人情報や著作権、情報関連の法律について総合的に復習すること

科目名	情報セキュリティ概論（セキュリティ概論）			科目コード	SI429	
英文名	Outline of Information Security			科目区分	【専門科目】 導入科目（選択）	
担当教員	日坂 彰		教員コード	137		単位数 2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う	☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する	☒	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	情報システムやインターネットの利便性が高まる一方で、様々なセキュリティリスクが伴う現実に対し、情報セキュリティの基本的知識と対策の必要性を講ずる。					
授業の狙い・到達目標	ICTデバイス、情報システムやインターネット利用時の情報セキュリティ対策を実施できる。 知的財産権など無形資産に対する理解を深め、「知価社会」に順応できる。 情報管理の基礎を理解し、メディアリテラシーが向上する。					
授業内容のレベル・関連科目	情報セキュリティの基礎／「情報科学概論」「情報資格演習」					
授業外学習（予習・復習）	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	情報処理推進機構（IPA）編著「情報セキュリティ読本 六訂版」実教出版					
参考書・その他教材	授業内で適宜紹介する。					
課題に対するフィードバック	課題毎に点検、フィードバックを行う。					
成績評価方法	定期試験（70%）、授業への貢献度（30%）で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	携帯電話の使用厳禁。遅刻厳禁。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	情報セキュリティ — 情報セキュリティの基本概念、情報資産とリスク 教科書第2章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分や所属する組織の情報資産とリスクは何かをまとめること。
2 回	学習内容 予習 復習	情報倫理 — インターネット利用(Web、電子メール、ブログ、SNS)のマナーとモラル 教科書第2章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 インターネット利用時のマナーとモラルに照らし合わせて自分の行動を点検すること。
3 回	学習内容 予習 復習	セキュリティリスク(1) — 最新動向 教科書第1章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 セキュリティリスクの最新動向に照らし合わせて自分の行動を点検すること。
4 回	学習内容 予習 復習	セキュリティリスク(2) — 内部のリスク要因、外部のリスク要因 教科書第2章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 内部のリスク要因、外部のリスク要因に照らし合わせて自分の行動を点検すること。
5 回	学習内容 予習 復習	セキュリティリスク(3) — マルウェア 教科書第3章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 マルウェア対策に照らし合わせて自分の行動を点検すること。
6 回	学習内容 予習 復習	セキュリティリスク(4) — 不正攻撃 教科書第3章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 不正攻撃対策に照らし合わせて自分の行動を点検すること。
7 回	学習内容 予習 復習	セキュリティ対策(1) — 個人的共通対策(1) 教科書第3章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分及び周囲(管理権限を持つ範囲)のICT環境について個人的共通対策を実践すること。
8 回	学習内容 予習 復習	セキュリティ対策(2) — 個人的共通対策(2) 教科書第3章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分及び周囲(管理権限を持つ範囲)のICT環境について個人的共通対策を実践すること。
9 回	学習内容 予習 復習	セキュリティ技術(1) — ファイアウォール 教科書第5章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分の周囲でファイアウォール技術が使われている所を考察すること。
10 回	学習内容 予習 復習	セキュリティ技術(2) — 暗号 教科書第5章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分の周囲で暗号技術が使われている所を考察すること。
11 回	学習内容 予習 復習	セキュリティ技術(3) — 認証 教科書第5章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分の周囲で認証技術が使われている所を考察すること。
12 回	学習内容 予習 復習	情報セキュリティポリシーとISMS 教科書第4章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 「情報セキュリティポリシーとISMS」について振り返り、まとめること。
13 回	学習内容 予習 復習	国際標準・国内標準と関連法規 — ISO/IEC 27000シリーズとJIS、ISO/IEC 15408とJIS 教科書第6章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 「国際標準・国内標準と関連法規」について振り返り、まとめること。
14 回	学習内容 予習 復習	知的財産権 — 著作権(法)、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、不正競争防止法 教科書第6章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 「知的財産権」について振り返り、まとめること。
15 回	学習内容 予習 復習	個人情報とプライバシー — 個人情報保護法、プライバシー、マイナンバー 教科書第6章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分の個人情報管理やマイナンバー管理について点検すること。

科目名	情報数学		科目コード	SI430	
英文名	Information Mathematics		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	日坂 彰	教員コード	137	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☒	3.論理的・批判的なものの見方を養う	☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	情報科学の基礎である数学を学ぶ。この講義は、(1)日常生活との密接な関係、(2) ICT(情報通信技術)に関連する職業に必要な知識、(3)情報処理系資格試験への合格の3点を強く意識した内容とする。				
授業の狙い・到達目標	情報科学の基礎である数学を習得し、実際に計算ができる。それにより、日常生活およびICT(情報通信技術)に関連する職業への活用ができる。また、各種情報処理技術者試験に合格するための基盤を得ることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	情報数学の基礎／「情報科学概論」「情報資格演習」				
授業外学習(予習・復習)	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	石原光・小堆光喜(共著)、野々山隆幸(監修)「入門 情報処理数学」実教出版				
参考書・その他教材	授業内で適宜紹介する。				
課題に対するフィードバック	課題毎に点検、フィードバックを行う。				
成績評価方法	定期試験(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	携帯電話の使用厳禁。遅刻厳禁。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org				

1 回	学習内容 予習 復習	離散数学と情報量の基礎 シラバスを熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 配布資料の問題を解くこと。
2 回	学習内容 予習 復習	記数法と基数変換 教科書の「1.1記数法」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「1.1記数法」から指定する問題を解くこと。
3 回	学習内容 予習 復習	式と計算 教科書の「1.2式と計算」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「1.2式と計算」から指定する問題を解くこと。
4 回	学習内容 予習 復習	集合 教科書の「2.1集合」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「2.1集合」から指定する問題を解くこと。
5 回	学習内容 予習 復習	論理 教科書の「2.2論理」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「2.2論理」から指定する問題を解くこと。
6 回	学習内容 予習 復習	関数(1) 教科書の「3関数」の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「3関数」から指定する問題を解くこと。
7 回	学習内容 予習 復習	関数(2) 教科書の「3関数」の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「3関数」から指定する問題を解くこと。
8 回	学習内容 予習 復習	ベクトル 教科書の「4.1ベクトル」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「4.1ベクトル」から指定する問題を解くこと。
9 回	学習内容 予習 復習	行列 教科書の「4.3行列」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「4.3行列」から指定する問題を解くこと。
10 回	学習内容 予習 復習	数列 教科書の「5数列」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「5数列」から指定する問題を解くこと。
11 回	学習内容 予習 復習	微分法 教科書の「6.1微分法」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「6.1微分法」から指定する問題を解くこと。
12 回	学習内容 予習 復習	積分法 教科書の「6.2積分法」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「6.2積分法」から指定する問題を解くこと。
13 回	学習内容 予習 復習	確率と統計(1) 教科書の「7確率と統計」の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「7確率と統計」から指定する問題を解くこと。
14 回	学習内容 予習 復習	確率と統計(2) 教科書の「7確率と統計」の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「7確率と統計」から指定する問題を解くこと。
15 回	学習内容 予習 復習	確率と統計(3) 教科書の「7確率と統計」の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「7確率と統計」から指定する問題を解くこと。

科目名	基礎統計学			科目コード	SI431		
英文名	Basic Statistics			科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)		
担当教員	大屋 伸彦		教員コード	161		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日/2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する		☒	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	<p>学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学の重要性が増している。古典的な推測統計学の基礎を学ぶとともに、手法を使えるようにExcelを用いて記述統計学から初歩的な推測統計学を学ぶ。</p>						
授業の狙い・到達目標	<p>1) データの整理・要約方法を身につける。 2) データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。 3) 基礎的な推測統計学が理解できる。</p>						
授業内容のレベル・関連科目	Excelの基礎を身につけていることを前提とする。そのため表計算演習は履修しておくことが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	<p>授業終了後、資料を再読すること。 統計学では数学を使用するが、ほとんどの場合高校までの数学で解くことが可能である。そのため、高校の数学をその都度復習すること。</p>				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特に指定しない。						
参考書・その他教材	大村平 「統計のはなし ー基礎・応用・娯楽ー【改訂版】 日科技連出版社						
課題に対するフィードバック	授業内容を毎回ファイルとして保存し、そのファイルの作成程度及び筆記試験、授業への参加度を総合的に評価する。						
成績評価方法	課題演習(40%)、授業内演習(40%)、授業への取り組み(20%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	統計の情報はインターネットで得ることが可能である。このような情報を予習、復習に活用すること。演習はEXCEL関数を用いるので、EXCEL操作に慣れておくことが望ましい。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to:ohya@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義概要)、統計とは シラバスを読んでおくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	代表値とばらつき 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	ばらつきのスタイル 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	ばらつきの法則 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	標本から全体を推定する①正規分布がわかっている場合 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	標本から全体を推定する②正規分布がわからない場合 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	能力を判定する(検定のはなし) 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	実験データの統計 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	故障と寿命 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	騙されやすい統計 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	カイ二乗検定とF検定 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	課題演習①パチンコの統計 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	課題演習②野球の統計 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	課題演習③競馬の統計 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ 全体の内容を復習し、配布資料に目を通しておくこと 全15回の授業を振り返り、統計学についての理解度を確認すること

科目名	ソーシャルビジネス概論			科目コード	SI432		
英文名	Outline of Social Business			科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)		
担当教員	中野 慶昭		教員コード	163		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		☒	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する		☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	ソーシャルビジネスの成り立ちや仕組みを理解する。 ソーシャルビジネスの今後について考える。						
授業の狙い・到達目標	到達目標は、以下の3点である。 ・ソーシャルビジネスについて理解できる。 ・SDGsについて理解できる。 ・自身が立ち上げたいソーシャルビジネスを考え、発表できる。						
授業内容のレベル・関連科目	ソーシャルビジネスにはベンチャー的な要素も含まれるので、「ベンチャービジネス論」もあわせて履修することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	予習は事前に資料を配布するので内容を調べ、理解しておくこと。 復習は授業内容を振り返って課題を実施すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員が資料を配布する予定。						
参考書・その他教材	講義内で必要となった場合に指示する。						
課題に対するフィードバック	毎回課題を出題し、その内容を次回の講義で共有する。						
成績評価方法	発表(40%)、小レポート(30%)、平常点(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃からソーシャルビジネスや社会的問題提起に関するニュースを意識しておくこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールやChatでも受け付ける。 メールの場合は、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

1 回	学習内容 予習 復習	<イントロダクション> 講義の進め方、参考図書の紹介など シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	<ソーシャルビジネス概要①> ソーシャルビジネスについて概説する ソーシャルビジネスという用語について調べておくこと ソーシャルビジネス全体の概要をつかんでおくこと
3 回	学習内容 予習 復習	<ソーシャルビジネス概要②> ソーシャルビジネスの展望について概説する ソーシャルビジネスの展望について考えておくこと ソーシャルビジネス全体の概要をつかんでおくこと
4 回	学習内容 予習 復習	<ソーシャルビジネス事例①> ソーシャルビジネスの事例について説明する 事例に指定する企業について調べておくこと 取り組み事例を理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	<ソーシャルビジネス事例②> ソーシャルビジネスの事例について説明する 事例に指定する企業について調べておくこと 取り組み事例を理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	<SDGs概要> SDGsの概要について概説する SDGsという用語について調べておくこと SDGsについて概要を理解すること
7 回	学習内容 予習 復習	<SDGs事例> 国内や海外のSDGsの事例を説明する SDGsに取り組んでいる企業や団体などについて調べておくこと 各取り組み事例について理解すること
8 回	学習内容 予習 復習	<前半のまとめ> これまでの授業の振り返り これまでの講義の疑問点をまとめておくこと これまでの講義の論点を整理し、小レポートを作成する
9 回	学習内容 予習 復習	<SDGsとソーシャルビジネス①> SDGsとソーシャルビジネスの関係について考える SDGsやソーシャルビジネスについて調べておくこと SDGsやソーシャルビジネスについて理解すること
10 回	学習内容 予習 復習	<SDGsとソーシャルビジネス②> ソーシャルビジネスのデメリットについて考える ソーシャルビジネスのデメリットについて調べておくこと ソーシャルビジネスのメリットやデメリットについて理解すること
11 回	学習内容 予習 復習	<SDGsとソーシャルビジネス③> SDGsのデメリットについて考える SDGsのデメリットについて調べておくこと SDGsのメリットやデメリットについて理解すること
12 回	学習内容 予習 復習	<演習①> 自分だったらどんなソーシャルビジネスを展開したいかを考える 自身が行いたいソーシャルビジネスについて考えておく 自身が行いたいソーシャルビジネスについて発表の準備をする
13 回	学習内容 予習 復習	<演習②> 自分だったらどんなソーシャルビジネスを展開したいかを考える 自身が行いたいソーシャルビジネスについて考えておく 自身が行いたいソーシャルビジネスについて発表の準備をする
14 回	学習内容 予習 復習	<発表> 自身が行いたいソーシャルビジネスの発表 講義で学んだことを踏まえて自分なりの考えをまとめておく 自身および他者の発表したことをまとめておく
15 回	学習内容 予習 復習	<全体のまとめ> 発表のフィードバックと全体のまとめ 講義で学んだことを踏まえて自分なりの考えをまとめておく 他者の意見と自身の意見の同意点や相違点を自分なりにまとめておく

科目名	ベンチャービジネス概論（ベンチャービジネス論）			科目コード	SI433		
英文名	Start-up Strategy			科目区分	【専門科目】 導入科目（選択）		
担当教員	大屋 伸彦		教員コード	161		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		☒	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する		☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	<p>起業や資金調達の基本的な仕組みを理解する。 ケーススタディから事業開発に必要なヒト、モノ、カネなどの経営資源をどう扱うのかを学ぶ。</p>						
授業の狙い・到達目標	<p>過去に成功したスタートアップ企業が現在どのような形に進化したのか、成功したスタートアップ企業とそうでない企業との違いについて理解することができる。 自分たちがスタートアップ企業として成功するために必要なことを理解し、自分たちの言葉で発表できるようになる。</p>						
授業内容のレベル・関連科目	企業のマネジメントを学んだ上での発展的な内容となるため、経営管理論の履修することが望ましい。						
授業外学習（予習・復習）	予習・復習については教員からの指示に従い行うこと。 グループワークにおいて積極的に発言をすること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員が資料を配布する予定。						
参考書・その他教材	講義内で必要となった場合に指示する。						
課題に対するフィードバック	最終講義でグループワークのフィードバックを行う。						
成績評価方法	授業内レポート(40%)、グループワーク課題(40%)、授業への取組み(20%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃からベンチャー企業に関するニュースを意識しておくこと。 もし自分が起業したらどのように経営をするのかという考えを持っておくこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(ohya@aikoku-u.org)またはオフィスアワー(初回講義時にアナウンスする)。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

ベンチャービジネス概論（ベンチャービジネス論）

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方、参考図書の紹介、グループワークの説明など) シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	ベンチャー企業を考える 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	日本のベンチャー企業の実態 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	ICTベンチャーの種類 指示した文献などに目を通しておくこと 講義内容にでてきた用語や内容を理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	ICTベンチャーと技術 ケーススタディで取り上げた企業について調べておく 講義内容にでてきた用語や内容を理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	ベンチャーの成長ステージ 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	アイデアから事業機会へ 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	ビジネスコンセプト 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	マーケティングの基礎①マーケティング分析 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	マーケティングの基礎②プロモーション戦略 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	ビジネスモデル 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	グループワーク課題説明 これまでの講義内容の全体を理解しておく グループワーク課題に対して個人でできる限り調査をしておく
13 回	学習内容 予習 復習	グループワーク グループワークを進める グループワークを進める
14 回	学習内容 予習 復習	グループワーク グループワークを進める 発表準備
15 回	学習内容 予習 復習	グループワーク発表と総評 発表準備 他者の意見と自身の意見の同意点や相違点を自分なりにまとめておく

科目名	会計学概論		科目コード	SI434	
英文名	Outline of Accounting		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	呉 鳶	教員コード	157	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☒	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う	☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探求する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	企業会計は、会社の効率的な運営にとって不可欠な手続きである。実践的な知識として習得するため、本講義では演習問題を数多くこなしていく。				
授業の狙い・到達目標	本講義を通して、会計制度の基礎知識への実践的な理解ができるようになる。会計制度の役割・仕組みを的確に理解することを通して、上場企業や中小企業などの企業活動に対して会計学の視点から分析する力を持てるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	ビジネス(企業経営)に関心を持ち、会計学関連の知識を専門的に理解するための基礎を養う。関連科目:簿記論、簿記演習、財務管理論、原価計算論				
授業外学習(予習・復習)	予習:授業の計画を事前に確認して、積極的に予習に取り組む。 復習:教科書などを確認しながら、基礎知識を身につけるように振り返る。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	千代田邦夫(著)『会計学入門(第8版)』中央経済社(2024)				
参考書・その他教材	担当教員が作成する配布資料、電卓				
課題に対するフィードバック	提出された課題を確認してから、翌週の授業時に返却して解答・解説を行う。				
成績評価方法	期末試験(70%)、課題提出(20%)、平常点(10%)				
成績評価基準	普段の課題提出状況、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。 (講義中に行う演習問題には、とりわけその姿勢が不可欠である)				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)あるいは対面で対応する。メールの場合、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。対面の場合、授業終了後あるいはオフィスアワー(新年度に掲示)に対応する。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の概要、進め方、達成目標などを確認する。)、会計と企業会計 事前にシラバスを確認する。 配布資料を復習し、講義の目的、スケジュール、達成目標などを明確にする。
2 回	学習内容 予習 復習	企業と会社 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習する。
3 回	学習内容 予習 復習	複式簿記の原理、演習問題と解説 配布資料、教科書指定ページを予習する。 講義内容と授業中の演習問題と解説を復習し、演習問題を完成する。
4 回	学習内容 予習 復習	会計制度の論理と体系(1) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の解説(板書)を復習する。
5 回	学習内容 予習 復習	会計制度の論理と体系(2) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の解説(板書)を復習する。
6 回	学習内容 予習 復習	損益計算書のパラダイム、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。
7 回	学習内容 予習 復習	貸借対照表の見方、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。□
8 回	学習内容 予習 復習	第2回～第7回の復習、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。□
9 回	学習内容 予習 復習	キャッシュ・フロー計算書の読み方、演習問題と解説 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。□
10 回	学習内容 予習 復習	企業会計の基準(企業会計の理論的な仕組み) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)、教科書の指定ページを復習する。□
11 回	学習内容 予習 復習	資産の会計(1) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。
12 回	学習内容 予習 復習	資産の会計(2) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。
13 回	学習内容 予習 復習	経営パフォーマンスの測定と表示、演習問題と解説 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。
14 回	学習内容 予習 復習	演習問題(履修生による解説、講評を含む) 第1～13回の配布資料、教科書の指定ページ、演習問題と解説を復習する。 演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
15 回	学習内容 予習 復習	総括(第1～14回の要点整理)、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 第1～14回の配布資料、教科書の指定ページ、演習問題と解説を復習する。 第1～14回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。

科目名	経営学概論		科目コード	SI435	
英文名	Outline of Business Administration		科目区分	【専門科目】 導入科目(選択)	
担当教員	中野 慶昭	教員コード	163	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	経営学の基礎概念を組織論と戦略論の観点から理解する。また、その基礎となる知識を習得する。				
授業の狙い・到達目標	経営学の基礎概念を主要な5つのテーマから体系的に理解できる。 主要テーマ:①組織論(マイクロ組織・マクロ組織)、②経営戦略論、③企業成長のための戦略と組織、④国際化のための戦略と組織、⑤イノベーション経営の戦略と組織				
授業内容のレベル・関連科目	経営学をはじめて学ぶ学生を対象としており、基礎的なレベルである。 経営組織論、経営戦略論、マーケティング論をあわせて受講することで、経営学に関する理解がより深まるものと考え。				
授業外学習(予習・復習)	予習は、事前に配布資料を読んでおき、内容を理解しておくこと。 復習は、授業内容を振り返り、課題を提出すること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が資料を配布する予定。				
参考書・その他教材	・榊原清則著『経営学入門』(上)(下). 日経文庫. ・鶴見 哲也ほか『幸福の測定－ウェルビーイングを理解する』. 中央経済社.				
課題に対するフィードバック	毎回課題を出題し、その内容を次回の講義で共有する。				
成績評価方法	最終レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	授業後の振り返りとして、自身の身近な出来事や話題を用いながら課題を作成すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問はメールやChatでも受け付ける。 メールの場合は、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

授業スケジュール

経営学概論

1 回	学習内容 予習 復習	<イントロダクション> 講義の概要と進め方を説明する シラバスを読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る。
2 回	学習内容 予習 復習	<経営学とは何か> 経営学の対象と経営学を構成する二大要素について概説する 配布資料を読んで理解しておくこと 本日の授業内容を振り返る。
3 回	学習内容 予習 復習	<マイクロ組織論①> 組織を構成する個人や集団の心理、行動について概説する 配布資料を読んで理解しておくこと 本日の授業内容を振り返る
4 回	学習内容 予習 復習	<マイクロ組織論②> 集団の機能の仕方にかかわるリーダーシップと管理者行動について概説する 配布資料を読んで理解しておくこと 本日の授業内容を振り返る。
5 回	学習内容 予習 復習	<マクロ組織論①> 組織構造の特徴や複雑性などについて概説する 配布資料を読んで理解しておくこと 本日の授業内容を振り返る
6 回	学習内容 予習 復習	<マクロ組織論②> 組織構造の機能分析とデザインについて概説する 配布資料を読んで理解しておくこと 本日の授業内容を振り返る。
7 回	学習内容 予習 復習	<前半のまとめ> 第2～6回の内容を振り返る 第2～6回の内容を復習してくる 本日の授業内容を振り返り、小レポートを作成する。
8 回	学習内容 予習 復習	<経営戦略論①> 戦略論の基礎、資源戦略について概説する 配布資料を読んで理解しておくこと 本日の授業内容を振り返る
9 回	学習内容 予習 復習	<経営戦略論②> 競争戦略論、ドメイン戦略論について概説する 配布資料を読んで理解しておくこと 本日の授業内容を振り返る
10 回	学習内容 予習 復習	<企業成長のための戦略と組織> 成長戦略と組織について概説する 配布資料を読んで理解しておくこと 本日の授業内容を振り返る
11 回	学習内容 予習 復習	<国際化のための戦略と組織> 国際化の先進事例や組織について概説する 配布資料を読んで理解しておくこと 本日の授業内容を振り返る
12 回	学習内容 予習 復習	<イノベーション経営の戦略と組織> イノベーション創出とその課題について概説する 配布資料を読んで理解しておくこと 本日の授業内容を振り返る。
13 回	学習内容 予習 復習	<日本企業の経営課題> 日本企業が直面する経営課題について概説する 配布資料を読んで理解しておくこと 本日の授業内容を振り返る
14 回	学習内容 予習 復習	<後半のまとめ> 第8～13回まで内容を振り返る 第8～13回の内容を復習しておくこと 本日の授業内容を振り返り、小レポートを作成する
15 回	学習内容 予習 復習	<全体のまとめ> 本講義のまとめと復習を行う 第7回、14回を中心に復習しておくこと 全15回の授業内容を振り返り、最終レポートを作成する